

**名張市総合計画
なばり新時代戦略（素案）**



目 次

- ① 序 章 P3～5
- ② 基本構想 P6～11
- ③ 基本計画 P12～55
- ④ 地域別計画 . . . P56～86

序 章

総合計画について

1

総合計画とは

2

総合計画の構成・期間・進行管理

序章 総合計画について

1 総合計画とは

総合計画は、将来どのようなまちにしていけるかの道しるべであり、まちづくりの基本となる計画です。

他の自治体と連携して取り組む広域行政に対して、調整・連携・要請などの計画の基礎となります。

本計画では、基本構想で基本理念と目指す姿を定め、その実現のため、基本計画で重点プロジェクトと基本施策を定めています。

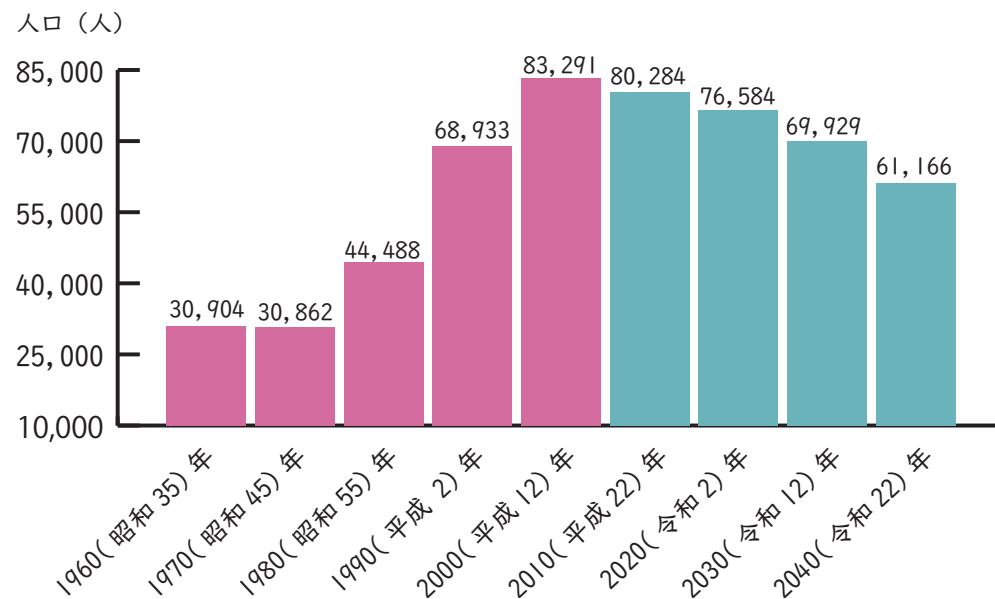
また、この計画は住民をはじめ市内で働く人、学ぶ人、事業者、団体などあらゆる主体に共有される指針です。

2016（平成28）年度に現在の総合計画である「新・理想郷プラン」を策定し、持続可能なまちづくりを目指し、担い手と受け手の区別なく、全ての市民が役割を持って社会参加し、暮らし、生きがい、地域を共に創る「地域共生社会」の実現に向けたまちづくりを進め、市民と地域の力を得ることができました。

しかしながら、名張市の人口については、1970（昭和45）年以降に急増したものの、2000（平成12）年をピークに徐々に縮小しており、働き手世代の減少による税収への影響、高齢化に伴う社会保障関連経費の増加が懸念されます。

今、新たな感染症の世界的流行をはじめ、国際情勢の急激な変化や想定外の自然災害の発生など社会のあり方や仕組みが大きな転換期を迎えようとしています。

このような不確実・不安定な時代背景において、変化に対応し、個性的で持続可能な未来を目指すため、総合計画「なばり新時代戦略」を策定します。

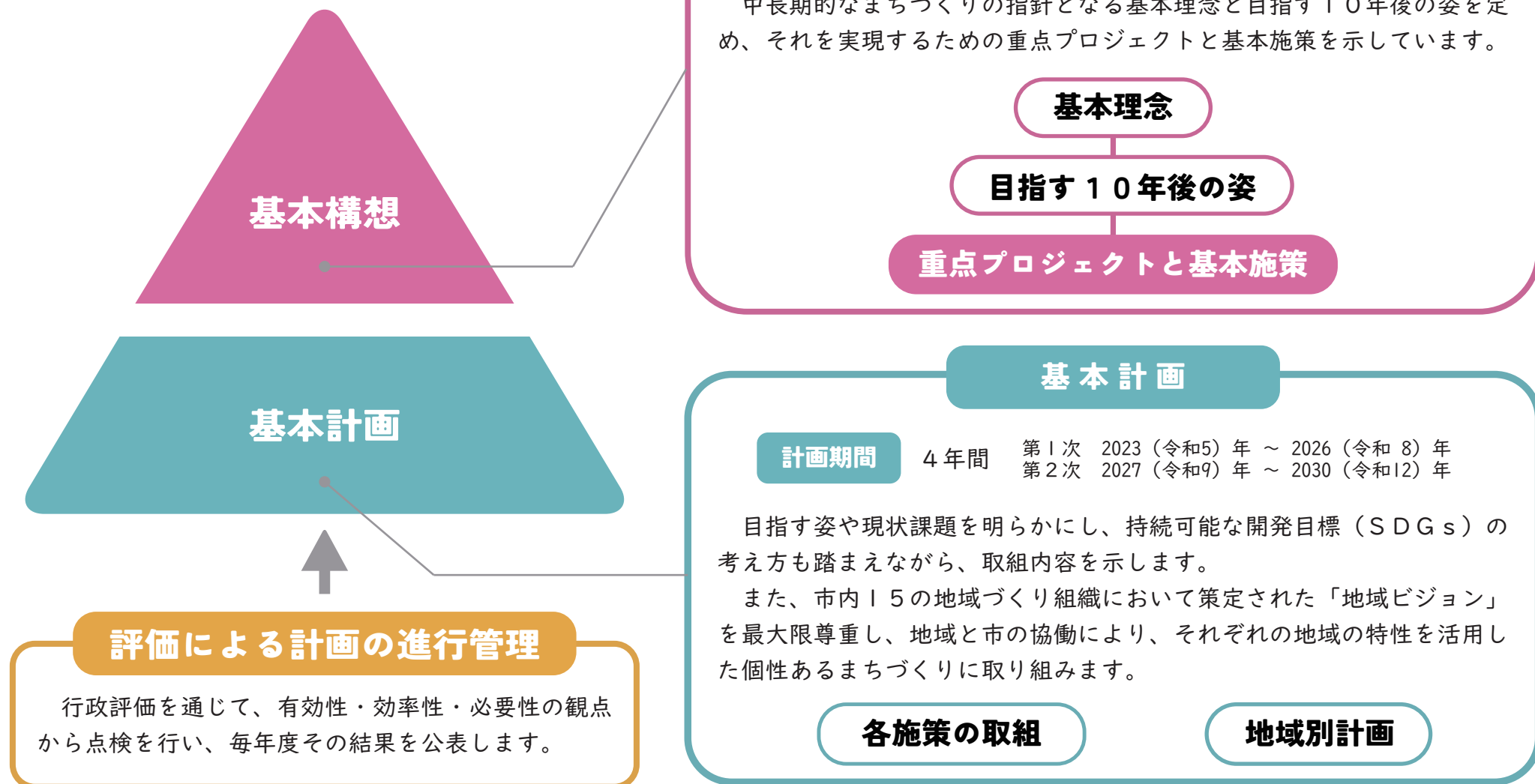


資料：国勢調査 及び 国立社会保障・人口問題研究所

序章 総合計画について

2 総合計画の構成・期間・進行管理

総合計画は、基本構想と基本計画で構成しています。



第 1 章

基本構想

1

基本理念

2

目指す10年後の姿

3

ひととまち

4

重点プロジェクトと基本施策

第1章 基本構想

1 基本理念

語れるまち なばり

ひととひとのつながりが名張市の財産です。
まちに愛着を持った人がつながり、コミュニケーションが活発に行われ、まちの将来に主体的に関わるひと（協力者）を増やしていくことが重要です。

市内外の協力者を増やししながら、まちの魅力をみんなで発信し、魅力ある場をたくさん作る。

身近な人、周りの人、名張を知らない人たちに名張を語りたくなる。
そういったひとをたくさん増やしていく。

そうすることで、名張「らしさ」をかたちづくることができます。みなさんとにぎわいあふれる「語れるまちなばり」を目指します。



第1章 基本構想

2 目指す10年後の姿

変化をおこし 活力あふれ

みんなでつくる 大好きなまち なばり

社会をはじめ、様々なことは時代とともに変化しています。そういった変化に対応することはもちろんのこと、これからは、市民自らが変化をおこすこと、挑戦することを目指します。

そうすることで、活力あふれるまちをつくり、みんなでつくるまちは、大好きなまちになっている。

名張が大好きなひとたちであふれる。

そして、名張に愛着を持ち、まちの将来に主体的に関わる協力者で更にまちに活気があふれる。

10年後にそのような名張市を目指します。

「なばり新時代戦略」策定に向けた意見交換会

総合計画の策定に当たり、若い世代を中心に市内11か所で意見交換会を開催し、参加者から活発な意見をいただきました。

主な意見

名張のいいところ

- ・住みやすい
- ・小中一貫教育で安心して進学できた
- ・田舎過ぎないのがいい
- ・散歩にぴったり
- ・人が温かい
- ・「ひやわい」が魅力的



ここがイマイチ・・・

- ・移動が大変
- ・目立つものがない
- ・農業の後継ぎがいらない
- ・情報発信が足りない
- ・若者が集まれる場所がない
- ・名張に何がある？と聞かれると答えづらい



こうすればいい

- ・メタバースで名張をPR
- ・若手の起業を支援
- ・若い人に活躍の場を
- ・「名張愛」で定住を
- ・名張ならではの仕事を
- ・空き家を利活用
- ・地元食材で新名物を



第1章 基本構想

3 ひととまち

名張市は、ひととまちへの様々な取組を行っています。

概ね小学校区を単位とした15地域で地域づくり組織を立ち上げ、地域づくり単位で「地域ビジョン」を策定し、地域の特性に応じた住民主体のまちづくりを進めています。

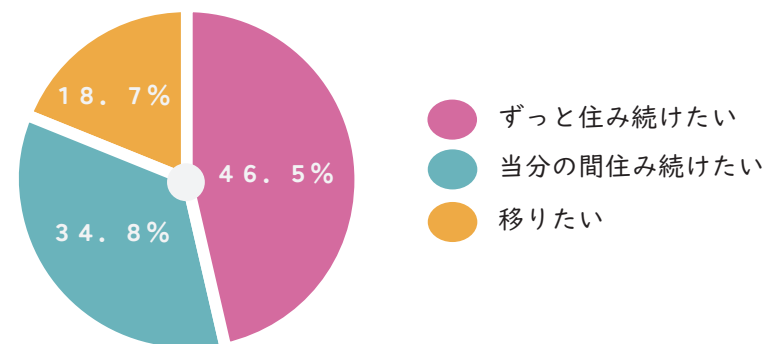
このような「地域力」を基本にして、産み育てるにやさしいまちの実現を目指し、産前産後の支援を強化し、安心して出産・子育てできる環境を整備するために、フィンランドの「ネウボラ」を参考に、切れ目ない支援として「名張版ネウボラ」に取り組んでいます。

小学校、中学校では、地域への関心を深め、伝統や文化を引き継ぐとともに、次世代の地域の担い手育成の取組としてふるさと学習「なばり学」を行っています。

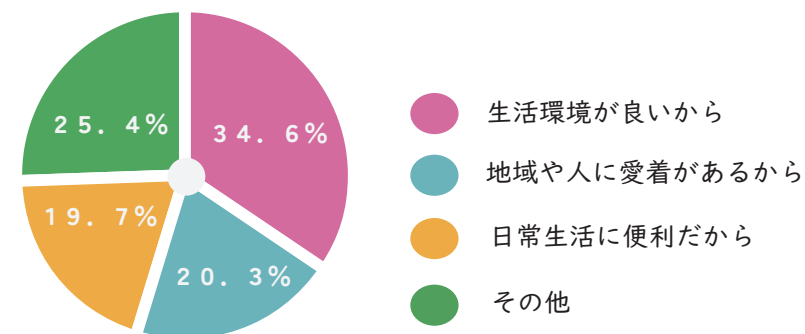
このような地域共生社会の実現に向けた、ひととまちへの取組は、名張市の強みであり、今後の取組の基盤となります。

この基盤を大切にし、さらに進化・発展させ、目指す姿の実現に取り組めます。

今後も名張市に住み続けたいですか？



名張市に住み続けたい理由は何ですか？



第1章 基本構想

4 重点プロジェクトと基本施策

本計画のテーマとなっている「動き」。

目指す10年後の姿の文頭にある「変化をおこす」でも動きを表しています。

テーマである「動き」を持って、これまでの取組を継承、発展させ、ひととまちを大切に重点プロジェクトと7つの基本施策を設定しました。

▶ 重点プロジェクト



重点プロジェクトのロゴは、基本施策と異なることを表現するため四角形を用い、その中に名張市の地形を配置し、情熱やエネルギーを表す「赤色」を使用しました。

「おこす」とは、ある物事を新しくはじめること、隠れていたものを表に出すこと、静かな状態を刺激し、ある影響をもたらすこと等の意味があります。

また、変化をおこすには挑戦も必要です。

目指す姿の実現のために様々な「おこす」の取組を行います。

▶ 7つの基本施策

7つの基本施策は「はぐくむ」、「つなぐ」、「つくる」、「すすめる」、「ささえる」、「ととのえる」、「まもる」のそれぞれ異なる動きを持った動詞を設定しました。

施策を推進していくにはひととまちが大切と考えています。

ひととまちが基礎となり、それぞれの動きが関わりを持って動くことが必要です。

また、それぞれの動きである施策も、それぞれが関わり、連動することにより力強い動きになります。

それを次のようなロゴで表現しました。



第1章 基本構想

4 重点プロジェクトと基本施策

はぐくむ

「はぐくむ」とは、大事に守って育てること。
優しさや愛情を表す「桃色」を使用し、子どもに関する施策や産業の活性化などをはぐくみます。

つなぐ

「つなぐ」とは、引き合わせる、ひとつづきにすること。
希望や明るさを表す「黄色」を使用し、地域の保健・医療・福祉やまちを次世代につなぎます。

つくる

「つくる」とは、形あるものないものに限らず何かを生み出すこと。
温もりや活発さを表す「橙色」を使用し、誰もが幸せに暮らせる社会や農村の新たな価値などをつくります。

すすめる

「すすめる」とは、前進させること、更に高めること。
安定や堅実を表す「茶色」を使用し、消防・救急体制や土地利用などの取組をすすめます。

ささえる

「ささえる」とは、維持すること、支援すること。
安心や信頼を表す「青色」を使用し、健康や地域医療などをささえます。

ととのえる

「ととのえる」とは、点検して望ましい状態にしておくこと。
バランスや成長を表す「黄緑色」を使用し、スポーツ環境や活動の憩いの場となる緑地や公園などをととのえます。

まもる

「まもる」とは、大切なものとして保護する、大事に保つこと。
安全や平和を表す「緑色」を使用し、人権や生活の環境などをまもります。

第 2 章

基本計画

1

重点プロジェクト

2

基本施策



第2章 基本計画

1 重点プロジェクト



「おこす」とは、物事を新しくはじめること、隠れていたものを表に出すこと、静かな状態を刺激し、ある影響をもたらすこと。

10年後の姿を目指すために重点プロジェクトとして産業、若者、ひとにスポットを当てた3つの「おこす」に取り組みます。

産業をおこす

若者でにぎわいをおこす

地域と多様に関わる人々をおこす

産業をおこす

産業をおこすとは、地域資源を活用した観光や農商工連携などで活性化を行うとともに、観光分野などの取組を産業まで高めます。

また、新しい雇用の創出に取り組むことで産業をおこします。

○地域資源を活用した地域産業の活性化

○新たな雇用の創出

若者でにぎわいをおこす

次世代を担う若者がまちの様々な取組に参画することで、まちがにぎわっていきます。イベントなどのまちへの参画に関する支援や若者がにぎわいをおこすための挑戦（チャレンジ）支援、また、若者が集まる場所、にぎわうことができる居場所づくりなどを支援します。

○若者のまちづくりへの参画

○若者のチャレンジ支援

○居場所づくり支援

地域と多様に関わる人々をおこす

市民協力者を増やすとともに、観光などを通して名張市を訪れた人（交流人口）などが名張市の魅力をたくさんの人に伝えることで、より地域と多様に関わる人（関係人口）をおこします。

○市民協力者の増加

○関係人口の増加



第2章 基本計画

2 基本施策



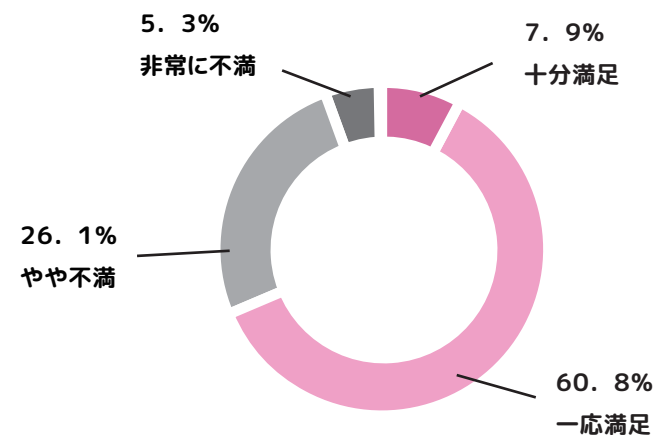
「はぐくむ」とは、大事に守って育てること。

妊娠・出産・子育ての切れ目ない支援（名張版ネウボラ）や子どもの健やかな成長、学校教育、観光・商工・農業の各産業、そして、名張市に関わる人など。

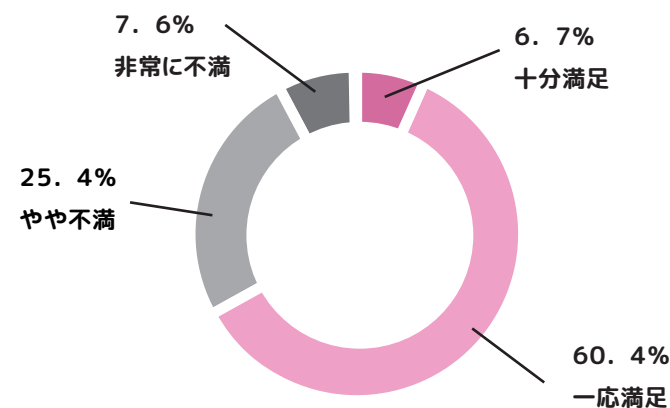
様々な「はぐくむ」に取り組みます。

- ▶ 全ての子どもを健やかにはぐくみます
- ▶ 学校で元気な「ばりっ子」をはぐくみます
- ▶ 観光産業をはぐくみます
- ▶ 経済をささえ、はぐくみます
- ▶ 緑の循環を促進し、豊かな森と緑をはぐくみます
- ▶ 協力者、関係人口を増やし、「名張」らしさをはぐくみます

保育施設や子育てサービス、相談窓口等の子育て支援施策について



小中学校の施設・設備や教育内容の教育環境について



・グラフデータは2022年度（令和4年度）名張市総合計画「新・理想郷プラン」に係る市民意識調査（アンケート）結果より
・以降のページにあるグラフデータについても同様の調査結果を使用しています。
・表示している割合は端数を四捨五入しているため、合計が100%を越える場合があります。



この施策で目指すもの

産み育てるにやさしいまち”なばり”の実現のため、安心して子どもを産み育てることができる妊娠・出産・育児の切れ目のない相談・支援や、社会全体で子どもの育ちと子育てを支え、全ての子どもが健やかに育ち、安心して子育てができる環境整備を進めます。

また、安定した保育サービスを提供するため、待機児童の解消に努め、多様な保育ニーズに対応できるサービスを提供します。

取組の内容

- ▶ 妊娠・出産・子育ての切れ目のない支援（名張版ネウボラ）に取り組めます
- ▶ 多様な保育ニーズに対応した、安定した保育サービスの提供と、幼児教育・保育の質の向上に取り組めます
- ▶ 子育て支援における市民活動の充実や居場所づくりなどの環境整備に取り組めます
- ▶ 子どもの権利を保障し、健やかな成長を後押しするよう、子どもと家庭の保健・福祉の向上に取り組めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
保育施設や子育てサービス、相談窓口等の子育て支援施策に満足している市民の割合	68.7%	73%
こそだてサポーター養成者数【延べ数】	3,763人	6,000人

現状と課題

- こども家庭庁が進める「こどもまんなか社会」の実現に向けた総合的な取組が求められています。
- 安心して子どもを産み育てることができるよう、「名張版ネウボラ」の更なる推進が必要です。
- 待機児童の多くを占める3歳未満児を中心に受入枠の拡充を図っていますが、社会経済環境の変化による保育ニーズの多様化に適切に対応し、安定した保育サービスを提供するため、保育施設の適正な管理運営や保育人材の確保等に取り組む必要があります。
- 地域、企業、家庭、学校等と連携し、児童虐待や困難を抱える子ども・家庭の支援、子どもの居場所づくりの推進等をはじめ、全ての子どもの健やかな成長のための環境整備に取り組む必要があります。
- 入園や入学、進学、就労等、ライフステージの移行とともに多様化する、子どもの困り感や保護者の不安などに対して適切な支援を行うため、関係機関の連携強化が求められています。

関連する計画

○ばりっ子すくすく計画

○名張市子ども・子育て支援事業計画



この施策で目指すもの

「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づく就学前教育を進め、小学校への円滑な接続を図ります。

また、義務教育9年間を見据えた教育活動において、系統性・連続性を確保した小中一貫した教育を推進すると同時に、一人一人の個に応じた指導や支援を行う教育実践を進めます。

取組の内容

- ▶ 小学校教育への円滑な接続を目指した就学前教育を実現するための取組を進めます
- ▶ 義務教育9年間を通じて、児童生徒の発達に合った学びの実現に向けた取組を進めます
- ▶ 一人一人の教育的ニーズを把握し、特別な支援が必要な児童生徒の自立のための取組を進めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
学校満足度調査による満足群にいる児童生徒の割合	69%	71%
全国学力・学習状況調査による「自分にはよいところがある」と思う児童生徒の割合	小学校76.6% 中学校78.6%	小学校81% 中学校82%
通常学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒のうち、個別の指導計画を保護者の合意のもとに作成している割合	小学校86.1% 中学校25.0%	小学校88% 中学校51%

現状と課題

- 小1プロブレム等就学時の課題を解決し、小学校教育へ円滑な接続を図るため、「しっかりつなぐ育ちのバトンカリキュラム」に基づいた実践をする必要があります。
- コミュニティ・スクールを基盤とした義務教育9年間を見据えた教育課程を編成し、系統性・連続性を確保した、一貫した指導・支援を行う必要があります。また、小学校高学年での教科担任制を導入するなど、子どもの資質・能力を育むため、発達段階に応じたきめ細やかな指導をする必要があります。
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、途切れのない支援を行っていく必要があります。
- 生徒の心身の健全な発達のため、中学校給食実施に向けて、関係機関と連携し、計画に取り組む必要があります。

関連する計画

- 名張市教育大綱
- 名張市教育振興基本計画「名張市子ども教育ビジョン」



この施策で目指すもの

新たな観点で様々な地域資源（バショ・モノ・コト・ヒト）を活用した持続可能な観光産業を確立するとともに、観光を軸にした地域産業の活性化、地域課題の解決、市民の暮らしや社会の豊かさにつながります。

取組の内容

- ▶ マーケティングに基づく良質な商品とサービスの充実に取り組みます
- ▶ おもてなし環境の充実に取り組みます
- ▶ 戦略的で効果的なプロモーションとセールスに取り組みます
- ▶ 広域観光の推進によるブランド力の強化に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
赤目四十八滝への年間延べ観光入込客数	116,695人	144,000人
市内宿泊客の年間延べ数	46,037人	65,000人
名張市を訪れた人の1人1回当たり旅行単価	9,582円	13,000円



現状と課題

- 名張市を訪れた観光客の約8割が日帰りであるとともに、1人の1回当たり旅行単価も全国平均を大きく下回っているという現状を踏まえ、長期滞在や高付加価値化による観光消費額の拡大に向けた取組が必要です。
- 2025年に開催される大阪・関西万博の来場者をはじめ、世界を相手にプロモーションを行っていくためには、市域・県域を越えた広域でのブランド化が必要です。
- 長年課題となっている公衆トイレをはじめ民間施設も含めた観光施設の老朽化、アクセス道路や駐車場、二次交通の充実とともに、事業者の経営継続、担い手や従業員の確保・育成など新たな課題への対策が必要です。

関連する計画

- 名張市観光戦略



この施策で目指すもの

新規創業者や中小企業などへの支援を通じ、多くの魅力的な事業所を支えることで、事業の継続性を高めるとともに市内経済の循環を進めます。新たな事業展開、業態転換のための支援や多様な業種間の産業連携を図ることで、地域経済の活性化と活力あふれる産業の持続的な発展を目指します。

また、若者をはじめ多様化する雇用ニーズに対応するため、関係機関と連携し、第1次産業から第3次産業まで幅広く働く機会の確保及び新たな雇用の創出を目指します。

取組の内容

- ▶ 観光業、農業、商業・サービス業など様々な業種間の連携による地域資源を活用した地域産業の活性化に取り組めます
- ▶ 中小企業の持続性を高め経営強化に取り組めます
- ▶ 若者をはじめとする多様な雇用を生み出す就業機会、新たな雇用の創出に取り組めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
1年間で新規事業展開を実施する事業所の件数	53件	73件
創業・事業継承実績件数【延べ数】	27件	35件
働く意欲のある人に生き生きと働ける場が確保されていると思う市民の割合	35.7%	40%

現状と課題

- 地域産業の活性化や新産業の創造には、それぞれの産業分野の垣根を超え、横のつながりを重視した取組と柔軟な発想が必要です。
- 事業所を取り巻く環境が変化する中、市内経済を支える中小企業の経営強化や事業継続のための新たな取組の支援が必要です。
- 企業ニーズを拾い上げ、より一層の支援につなげる必要があります。
- 市内で働く場所がないと考える市民が多い一方で、働き手を必要とする事業所が多く存在します。関係機関と連携し、雇用のマッチングを図るなど、市内の就労機会の確保が必要です。

関連する計画

- 名張市観光戦略
- 名張市農業マスタープラン
- 名張市男女共同参画基本計画ベルフラワーII



緑の循環を促進し、豊かな森と緑をはぐくみます

この施策で目指すもの

かつて、木製まな板生産量では日本一として名を馳せた名張市が今一度木材のまちとしての再興を目指し林業の活性化を進めます。

市民が安全で豊かに暮らせるように適切な森林管理を図り災害に強い森林づくりを進めます。

未整備放置林を森林所有者に代わって整備することで水源かん養や地球温暖化防止、生物多様性保全など森林が有する様々な機能を十分に発揮させ健全な状態を目指します。

取組の内容

- ▶ 森林整備のための路網整備や補助制度の拡充を推進し木材生産量の増加に取り組みます
- ▶ 森林経営管理制度の推進に取り組みます
- ▶ 森林環境教育の普及と拡充に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
森林経営管理制度に基づく森林整備面積	0ha	200ha
作業道開設延長	214.6m	6,000m
年間木材搬出量	1,216m ³	3,000m ³



現状と課題

- 未整備林において適切な森林整備を実行していくために、森林経営管理制度を推進し森林所有者の特定及び所有森林の境界明確化を進める必要があります。
- 名張市では優良な木材が豊富に生育されており、今後、木材生産量を増加させるために路網密度の向上に努め、名張産材のブランド化を推進します。
- 自ら所有する山林を伐採する自伐林家の高齢化の課題解決のため、新たな担い手を確保し持続的な森林経営を図ることが必要です。
- 住民の生活と密接にかかわる森林や木材の大切さについて見直し、社会をめぐる情勢の変化に対応していくために、森林環境教育の更なる普及と拡充に努める必要があります。

関連する計画

- 名張市森林整備計画

はぐくむ

協力者、関係人口を増やし、「名張」らしさをはぐくみます

この施策で目指すもの

名張市に愛着を持ち、まちに主体的に関わる市民があふれるような市民参画型のシティプロモーションを進めるとともに将来的な移住を見据え、市内外から名張市を応援してくれる人や地域の様々な場面や取組の担い手として関わってくれる人の増加を図り、まちのにぎわいづくりを目指します。

また、次代を担う若い世代をはじめ多様な人々が、まちの魅力づくりや課題解決にチャレンジできる仕組みの構築や支援を進めるとともに、にぎわいの場所や居場所づくり支援に取り組みます。

取組の内容

- ▶ 意欲ある若者の視点やアイデアを取り入れた活動、にぎわいをおこすチャレンジ等、若者参画のまちづくり支援に取り組みます
- ▶ 名張市に興味や愛着を持ち、名張市と関わりたい、まちの人たちと交流したいと思う関係人口の増加に取り組みます
- ▶ 若い世代がにぎわいをおこす場所や若者が集える居場所づくりに関する支援に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
市内の高等学校・高等教育機関に在学する生徒などが名張市に住み続けたい、住みたいと感じている市民の割合	令和5年度の調査値※	基準値より増加
「地域をよくするために活動したい」又は「地域をよくするために活動している人に感謝したい」と考える18歳～29歳の割合	令和5年度の調査値※	基準値より増加

※市民意識調査にて新規調査を行います。

11 住み続けられるまちづくりを



現状と課題

- 進学や就職による市外転出が多いことに加え、婚姻率の低下や晩婚化による出生数の低下など、様々な要因が複合的に絡み合い人口減少が進行しています。
- 市内外から継続的に地域に関わる人口の拡大や若者の活力をまちづくりに活用し、次世代の担い手育成等が求められています。
- まちの活力維持・向上には若者や子育て世代などのチャレンジや、感性を取り入れた事業に積極的に取り組む必要があります。また、その世代が活動できる環境や活動できる場所を整える必要があります。

関連する計画

- 名張市まち・ひと・しごと創生 総合戦略
- 名張市観光戦略
- 名張市広報戦略



第2章 基本計画

2 基本施策

つなぐ

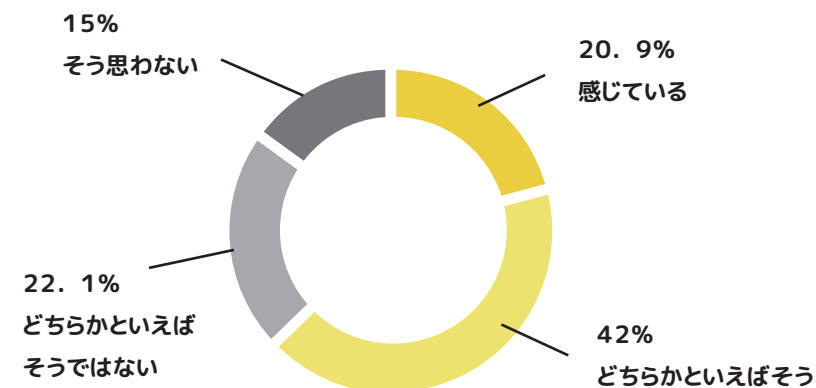
「つなぐ」とは、引き合わせる、ひとつづきにすること。

地域の保健・医療・福祉、文化や情報、まちを次世代につなぐための住民自治や人口減少対策や広域連携、更には交通環境の取組など。

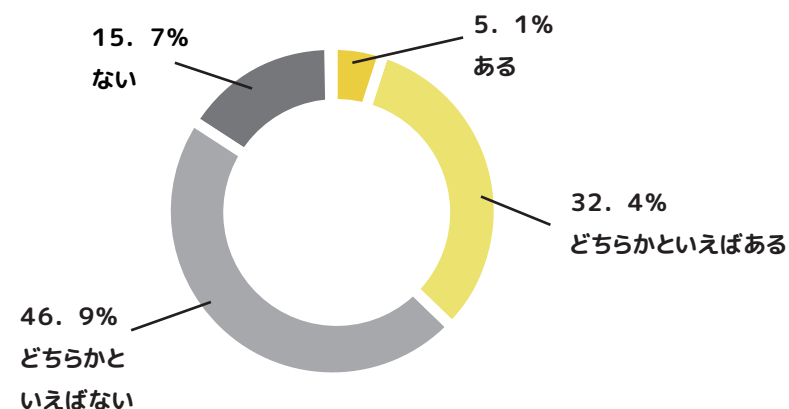
様々な「つなぐ」に取り組みます。

- ▶ 地域の保健・医療・福祉をつなぎます
- ▶ 文化をはぐくみ、次世代につなぎます
- ▶ 共感を生む情報発信でひと・まち・行政をつなぎます
- ▶ 持続可能な住民自治を未来につなぎます
- ▶ ひととひと、まちとまちを交通環境でつなぎます
- ▶ ひととまちを次世代につなぎます

隣近所や地域の人との交流があると感じていますか



市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで、身近に文化や芸術に接する機会がありますか



つなぐ

地域の保健・医療・福祉をつなぎます

この施策で目指すもの

保健・医療・福祉の連携を強化し、地域の見守りのネットワークの充実、支え合い助け合いにより、交流やつながりのある地域福祉の推進体制の整備を進め、全世代・全対象型の地域包括ケアシステムの更なる深化・推進を目指します。

社会的・経済的な自立が困難な場合にも、社会保障制度を利用することで社会から取り残されることなく、安心できる暮らしが保障され、誰もが自立に向けて頑張れる社会づくりを進めます。

取組の内容

- ▶ 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、全世代・全対象型の地域包括ケアシステムの充実に取り組みます
- ▶ 地域の見守り支援ネットワークの充実に向けて、社会参加の場づくりや担い手の育成に取り組みます
- ▶ 身近な相談窓口の整備と、社会的処方による支援機能の充実に取り組みます
- ▶ 生活困窮の背景や程度に応じ、必要に応じた保護や自立に向けた支援に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
隣近所や地域の人との交流があると感じている市民の割合	62.9%	70.5%
まちの保健室を知っている市民の割合	令和5年度の調査値※	基準値より増加

※市民意識調査にて新規調査を行います。



現状と課題

- 1人暮らし高齢者等の急増や、生活困窮、ひきこもり、8050問題、ヤングケアラーなど、地域、家庭、個人の抱える課題が複雑化・複合化する中、それぞれの状況に応じた適切な支援につなげられるよう重層的な支援機能の更なる強化に向けた取組が必要です。
- 持続可能な地域共生のまちづくりに向け、次世代を担う人材育成等の取組や、健康で生きがいを持てる社会参加の場づくりが必要です。
- 家庭内の課題が複雑化・複合化する中、個々の事情を尊重しながら、適正な社会保障制度の利用につなげるための支援を行うとともに、効果的な制度の利用につなげるため、早期支援の実施に向けた取組が必要です。

関連する計画

- 名張市地域福祉計画



この施策で目指すもの

文化に触れる機会を、より多くつくることで、文化への意識向上を図り、地域文化の更なる発展を目指します。

また、多様な文化資源を活用し、地域の魅力を発信することで、郷土への誇りと愛着心を高めます。

地域固有の伝統文化を守り、継承するとともに、それを発展させることで、地域の活性化を図ります。そして、伝統文化を通じて、地域間のつながりを強め、人間味あふれるまちづくりを目指します。

取組の内容

- ▶ 魅力ある市民文化を育み、豊かな心と文化の息づくまちづくりに取り組みます
- ▶ 文化財を適切に保護し、文化資源を活用したまちの活性化に取り組みます
- ▶ 伝統文化等を継承し、郷土に誇りと愛着が感じられるふるさとづくりに取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
市民による自主的な文化芸術活動が活発に行われていることで、身近に文化や芸術に接する機会があると感じている市民の割合	37.5%	42%
青少年センター、名張藤堂家邸跡、夏見廃寺展示館、郷土資料館の年間入場利用者数	36,015人	45,000人
名張市美術展覧会の出品数	129点	155点

現状と課題

- 市民が文化芸術に触れる機会である、文化事業への若者の参加が増えず、参加者の高齢化が進んでいます。
- 「なばり学」の学習が進められる等、地域文化財資源への関心が高まっており、限られた予算の中で、資源の適切な保全を図るとともに、市民の学習ニーズに応じた歴史講座や資料展示が求められています。
- 市史編さん事業においては、次巻の刊行に向けて、編集などを計画的に進める必要があります。
- 名張市の伝統芸能である「能」「狂言」を振興する団体会員数が、少子高齢化等に伴い減少しています。

関連する計画

- 名張市教育大綱

つなぐ

共感を生む情報発信でひと・まち・行政をつなぎます

この施策で目指すもの

市民参画型のシティプロモーション（名張市の魅力の創造、磨き上げを行い、市内外へ戦略的に発信）を進めていくことで、まちへの愛着や誇りを醸成し、市民自らが当事者意識を持って地域活動等に参画する意欲を高めるとともに、新たな交流人口や関係人口を創出し、地域の持続的発展を目指します。

また、効果的な情報発信と市民参画を促すための広聴活動を充実させることで、市民と行政のよりよい関係づくりを行います。

取組の内容

- ▶ 地域の持続的な発展を目指すシティプロモーションに取り組みます
- ▶ 市民と行政の関係性の向上のための広報広聴活動の充実に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
名張市を知人に「お勧めしたい」と考える市民の割合	令和5年度の調査値※	基準値より増加
「地域をよくするために活動したい」または「地域をよくするために活動している人に感謝したい」と考える市民の割合	令和5年度の調査値※	基準値より増加
現在の名張市の情報提供や広聴制度について満足している市民の割合	76.7%	80%

※市民意識調査にて新規調査を行います。

11 住み続けられるまちづくりを



現状と課題

- シティプロモーションに関しての統一的な方向性がなく、また、名張市のブランドイメージやターゲット層が確定していないために、共感・協創意識を生み出すようなシティプロモーションが戦略的に進められていないのが現状です。
- 全ての施策の展開に当たって通底する考え方の1つとして「積極的なシティプロモーション」を基本理念として位置付け、全庁一体的な推進体制を整備する必要があります。
- 市民の意見や提案が市政にどのように反映されているかが分かるよう広聴活動の“見える化”を図るとともに、広聴と広報を有機的に連動させる仕組みを構築する必要があります。

関連する計画

- 名張市広報戦略
- 名張市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- 名張市観光戦略

つなぐ

持続可能な住民自治を未来につなぎます

11 住み続けられるまちづくりを



この施策で目指すもの

概ね小学校区単位に設置された地域づくり組織において、行政と地域の協働により、地域の将来像（地域ビジョン）の実現に向け、様々な取組を実施し、住民主体のまちづくりを進めてきました。

これまで進めてきた名張流のまちづくりを継承しつつ、若い世代を含めた住民全体が参画し、多様な主体と連携・協働しながら、急激な社会情勢の変化に対応できる持続可能なまちづくりを進めます。

取組の内容

- ▶ 住民主体のまちづくりを次の世代につなげるための仕組みや改善に取り組めます
- ▶ 地域ビジョンの推進と公共的な地域課題の解決に向けて、地域と連携した取組を進めます
- ▶ 学生やボランティア団体、企業など多様な主体との連携・協働に向けた取組を更に進めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
地域ビジョンに掲げられている各種事業や地域づくり組織・区・自治会などの活動に参加したことがある市民の割合	53.5%	60%
高校生や大学生など若者と連携した取組をしている地域づくり組織数	3地域	10地域

現状と課題

- 豊かで活力ある地域社会を実現し、住み慣れた地域で暮らし続けるためには、住民主体のまちづくりの仕組みを継続していくことが、今後ますます重要になります。
- 少子高齢化の進展や単身世帯の増加をはじめ、社会情勢の変化により地域の課題も複雑化しています。一部の地域では、若者を巻き込んだ新たな取組を進めていますが、多くの地域で担い手が不足している状況にあり、今後の地域自治の運営に課題があります。
- 地域づくり組織のそれぞれの特性を活用しつつも、単独でできない事業などは、地域同士が相互で補完し合い、また、多様な主体と連携・協働しながら取組を進める必要があります。

関連する計画

○15 地域づくり組織 地域ビジョン

つなぐ

ひととひと、まちとまちを交通環境でつなぎます

この施策で目指すもの

人と環境にやさしい持続可能な集約連携型都市の構築を目指し、円滑に自動車交通を処理するための道路整備と、公共交通による移動の利便性確保により、生活拠点間をつなぐ交通環境を整えます。

また、多様な主体の協働による幅広い施策により、人と人との公共交通で結び、交流を創出するネットワークをつくります。

取組の内容

- ▶ 市民、交通事業者、行政のほか、多様な主体が一体となって、交通まちづくりに取り組みます
- ▶ ナッキー号と地域コミュニティバスの利便性の向上と安定した運営に取り組みます
- ▶ 地域特性に応じ、多様な移動手段との交通連携に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
公共交通など市内の交通環境に満足している市民の割合	40.6%	43%
コミュニティバス「ナッキー号」の1日平均利用者数	181人	175人※
1年間に公共交通の利用促進に向けた啓発活動をした回数	5回	6回

※人口減少を考慮した数値



現状と課題

- 人口減少等により公共交通利用者は減少傾向にあり、公共交通の安定的なサービス確保のための持続可能な公共交通ネットワークを構築する必要があります。
- コミュニティ交通の運行においては、中心市街地の巡回及び乗継拠点までのアクセスを担っていますが、近年ラストワンマイル問題に起因する高齢者の移動手段の確保が課題となっています。
- 歩行者や自転車が安心して利用できる環境整備や大規模災害時における緊急輸送や避難など安心・安全な交通環境を創出する必要があります。

関連する計画

- 名張市都市マスタープラン
- 名張市総合都市交通マスタープラン
- 名張市地域公共交通計画

つなぐ

ひととまちを次世代につなぎます

11 住み続けられる
まちづくりを


この施策で目指すもの

活力あふれるまちを目指し、「産業」・「若者」・「ひと」に関する施策の重点的な取組とともに、各種施策の横断的な取組を推進し、地域活力の創出に向けた取組を進めます。また、名張市の課題解決や持続的な発展に向け、大学や民間事業者のサービスやノウハウを活用し、新しい施策や取組を進めます。

医療、福祉、市民生活、消防、防災、観光等の分野や道路等の交通インフラの整備など、県及び近隣自治体との幅広い分野で相互に補完・協力する広域的な関係づくりにより、重層的な行政運営を目指します。

取組の内容

- ▶ 総合計画を軸とする各種施策の推進、予算編成等につながる行政評価システムの再構築に取り組みます
- ▶ 大学や企業など市内外の機関とのパートナーの構築、強化に取り組みます
- ▶ 周辺自治体をはじめとする県内外の関係自治体との連携を強化し、効率的かつ効果的な広域活動に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
今後も名張市に住み続けたいと感じている市民の割合	83.8%	85%
「なばり新時代戦略」重点プロジェクト推進に関する企業等との連携協定数【延べ数】	0件	8件

現状と課題

- 人口減少、少子高齢化など社会情勢の変化により、人材や団体など名張市の人的な地域資源が減少していくことが懸念され、新たな時代に対応できないおそれがあります。
- 人口減少の抑制と交流人口・関係人口の拡大を図るため、効果が期待できる新たな施策やその実践に取り組み、名張市の地域活力の創生につなげていく必要があります。
- 限られた財源・職員において、多様化する市民ニーズや地域課題へ対応するには、事業者等多様な主体との連携強化を図る必要があります。また、広域的な自治体の連携により高い効果が得られる施策については、連携を強化し取り組んでいく必要があります。

関連する計画

- 名張市まち・ひと・しごと創生 総合戦略



第2章 基本計画

2 基本施策

つくる

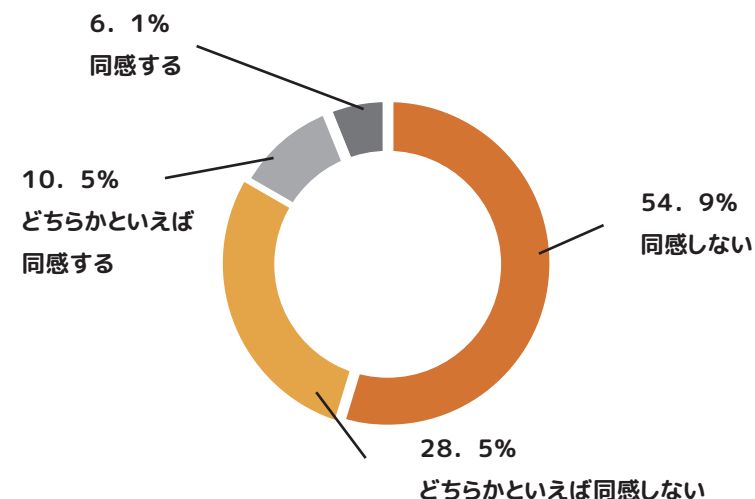
「つくる」とは、形あるものないものに限らず何かを生み出すこと。

性別や国籍、人種を超えた誰もが幸せに暮らせる社会や生涯学習社会、農業の新たな価値、環境負荷の少ない社会、魅力ある都市など。

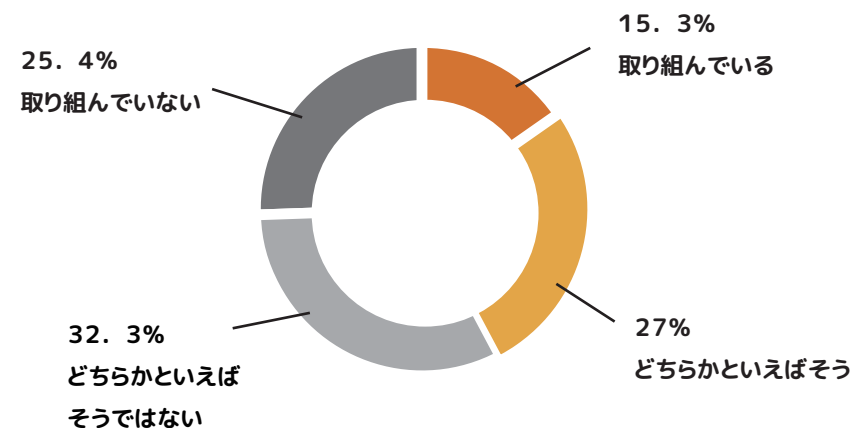
様々な「つくる」に取り組みます。

- ▶ 多様性を認め合える男女共同参画と多文化共生のまちをつくります
- ▶ 青少年の健全な育成環境と生涯学習社会をつくります
- ▶ 農業・農村の新たな価値をつくります
- ▶ 環境負荷の少ない社会をつくります
- ▶ 風土と暮らしが共生する魅力ある都市をつくります

男は仕事、女は家庭といった男女の固定的な役割分担に同感しますか



自らの人生を豊かにするために「生涯学習」といわれる自ら進んで行う学習や文化活動、趣味などに取り組んでいるか





多様性を認め合える男女共同参画と多文化共生のまちをつくります

この施策で目指すもの

市民一人一人が性別や国籍、人種に関わりなく、互いの違いを認め合い、共に支え合うことで、個性を十分に発揮し、誰もが元気で幸せに暮らせる男女共同参画（ジェンダー平等）・多文化共生のまち名張を市民、事業者、地域づくり組織、市民活動団体など多様な主体との連携・協働により実現します。

取組の内容

- ▶ 市内の全ての事業で男女共同参画・多文化共生を意識しながら取り組めます
- ▶ 家庭、地域、働く場などあらゆる分野において男女共同参画の推進に取り組めます
- ▶ 外国人住民が安心して暮らせるように、相談・支援体制の充実に取り組めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
男女の固定的な役割分担に同感しないという市民の割合	83.4%	90%
男女共同参画に関する講座の参加者数（市担当部署関連のもの）	30人	200人
多文化共生センター利用者数（電話、メール含む）	1,034人	1,500人



現状と課題

- 市民の日常生活や市や企業の各事業の取組において、常に男女共同参画、多文化共生の視点に立った意識を持つために、研修機会の提供など啓発が必要です。
- 男女共同参画に対する意識が高まりつつありますが、意識と実態との差は未だ大きく、家庭や学校、働く場、地域など身近なところから男女共同参画を実践的に進める必要があります。
- 全ての人が多様な生き方を認め合う社会を実現するため、「性の多様性を認め合うまち・なばり」を宣言しています。
- 多文化共生センターでは、気軽に外国人住民の相談に乗り、言葉や文化の違いから情報が届かずに取り残される人がないように、情報の多言語化や、やさしい日本語の普及、学校・地域と連携した支援体制の充実を進めています。

関連する計画

- 名張市男女共同参画基本計画ベルフラワーII
- 名張市多文化共生指針

青少年の健全な育成環境と生涯学習社会をつくれます



この施策で目指すもの

生涯を通じて学ぶことができる環境の整備、多様な学習機会の提供及び、学習成果を活用した活動の場の提供が図れるよう取組を進めます。

また、青少年を取り巻く環境が目まぐるしく変化する中で、心身ともに健全にたくましく成長していけるよう、学校・家庭・地域等が連携して青少年の健全育成に取り組みます。

取組の内容

- ▶ 生涯学習ネットワークを構築し、市民が自己実現できるよう取り組みます
- ▶ 青少年の健全育成を関係機関と連携し、子どもを守り育てる取組をすすめます
- ▶ 図書館サービスの3要素(施設・人・資料)の充実を行い、様々なサービスの提供に取り組みます。

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値(2026年時点)
目的を持って生涯学習に取り組んでいる市民の割合	42.3%	50%
放課後子ども教室設置数	6教室	9教室
市民1人当たりの年間図書貸出冊数	4.9冊	6.5冊

現状と課題

- 「多様な生涯学習」、「生涯学習の連携・協働」、「人材育成」の場づくりを目指し、子どもを核とした生涯学習ネットワークを構築する必要があります。
- 地域の生涯学習の場である市民センターにおいて、相互の連携を図る必要があります。
- 名張Kidsサポータークラブ等の青少年ボランティアに対して、技術向上や活動機会の提供等を行う必要があります。
- 不審者情報の増加や全国的にSNSによる青少年が被害者となる事案が発生している中、引き続き関係機関・団体と連携し、子どもたちを見守る体制を強化していく必要があります。
- 図書館における利用者ニーズを的確に把握しながら、民間委託事業者やボランティア等と協働して、市民が必要とする図書館資料やサービスを適切に提供していく必要があります。

関連する計画

- 名張市教育大綱
- 名張市教育振興基本計画「名張市子ども教育ビジョン」
- 名張市子ども読書活動推進計画

つくる

農業・農村の新たな価値をつくります

この施策で目指すもの

“なばり農業”の実現を目指し、多彩な担い手への支援をはじめ高付加価値化の推進等、地域との対話を基本に関係機関と連携を図り進めます。

有害鳥獣による被害防止と農業者の営農意欲の低下を抑制するため、持続可能な体制整備と有害鳥獣の捕獲・駆除活動を進めます。

農林業基盤の整備とともに、農山村や農地・山林の持つ多面的機能の向上を図り、農福連携をはじめ商工業、観光、地域活動、教育、子育て等の各施策と連携し快適で美しいむらづくりを進めます。

取組の内容

- ▶ 名張市の特色を活用した、なばり農業の推進に取り組みます
- ▶ 持続可能で効果的な鳥獣害対策の充実に取り組みます
- ▶ 安心・安全な農林業基盤整備の促進に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
認定農業者数	35人	39人
名張市の農産物を消費している市民の割合（地産地消の割合）	令和5年度の調査値※	基準値より増加
有害鳥獣の捕獲従事者数	51人	60人

※市民意識調査にて新規調査を行います。

現状と課題

- 名張市の農業は、自立的農業者だけでなく小規模農業者なども含めた多彩な担い手によって支えられています。「儲かる農業」の育成や農業の持つ多様な価値や恩恵に着目した「充たされる農業」づくりも合わせた“なばり農業”を進める必要があります。
- 農村集落については、人口減少、高齢化、担い手不足により、集落機能の低下が進み、将来的には集落の消滅も危惧される中、各集落の現状や意向を踏まえた今後の農地の保全・活用、生産方針等、各集落の在り方について検討する必要があります。
- 鳥獣による農林業被害や生活環境被害が増加する中、捕獲の担い手不足が喫緊の課題となっており、新たな担い手の確保に向け、関係団体等と連携し、鳥獣害対策体制の構築が必要です。
- 安定した農業生産を維持するため、農業用施設について改修を行うことにより長寿命化を図るとともに、防災重点農業用ため池については、防災工事の推進が急務となっています。

関連する計画

○名張市農業マスタープラン

この施策で目指すもの

地球温暖化により、異常気象の発生、食料生産の低下、生態系の異変など深刻な影響が生じています。名張市では、市民・事業者・行政がごみの減量や4Rの推進により、資源循環型社会を実践してきました。

今後、これらの取組を更に強化するとともに、一人一人が自覚をもって温室効果ガスの排出削減に向けたライフスタイルやビジネススタイルを確立し、再生可能エネルギーの取組を推進するなどにより脱炭素社会の構築を目指します。

取組の内容

- ▶ 持続可能な一般廃棄物の広域処理施設の整備に取り組みます
- ▶ ごみゼロ社会を目指し、資源循環型社会づくりに取り組みます
- ▶ 温室効果ガスの排出量の削減に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
1人1日当たりのごみの排出量（※事業系含む）	731.1g	720g
日常生活で省資源・省エネルギーを心掛けている市民の割合	87.4%	92%
市の事務事業に係る1年間のCO ₂ 排出量	12,789t	10,000t



現状と課題

- 市民・事業者・行政が一体となり、ごみの減量化・資源化の促進に努めてきました。今後、更なるごみの排出量の削減に努めるとともに、バイオマス資源の利活用や、プラスチック類の資源化について調査研究を進める必要があります。
- 国は、2050年までに温室効果ガス排出を全体としてゼロとする2050年カーボンニュートラルを宣言するなど、社会情勢が大きく変化しています。これらに対応するため、名張市地球温暖化対策実行計画を見直し、脱炭素社会の取組を進めていく必要があります。

関連する計画

- 名張市快適環境基本計画
- 一般廃棄物処理基本計画（ごみ編）
- 名張市環境マネジメントシステム（名張市地球温暖化対策実行計画）



風土と暮らしが共生する魅力ある都市をつくれます

この施策で目指すもの

土地に根付いてきた自然と共生する暮らしと、その暮らしの中に新しく誕生した市街地が、調和しながら発展してきた歴史を踏まえ、それぞれのライフステージに応える質の高い都市環境の形成と、地域特性に応じた個性を際立たせるため、地域をコンパクトに集約高密度化し、交通でつなぐことにより、「自然」、「ひと」、「まち」の関係性を更に深みのある共生へと進展させ、資源循環型の集約連携都市の形成に取り組めます。

取組の内容

- ▶ 集約連携型の都市構造を目指し、居住や都市機能の誘導に向けた取組を進めます
- ▶ 都市計画道路等の見直し・整備を進めます
- ▶ 地域住民と協働して、愛着と誇りが持てる良好な景観形成に取り組めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
自分が住む地域におけるまち並みなど景観や環境が良好であると感じる市民の割合	75.9%	80%
1年間の都市計画等に関する市民等との協働・参画状況	6.3回	7回



現状と課題

- 人口減少下、持続可能で安心・安全の暮らしを守る都市づくりを進めるためには、これまでの土地利用規制等に加え、集約連携型都市構造の実現に向けた具体的取組を進める立地適正化計画を策定し、居住や都市機能を誘導することで都市をコントロールする新たな仕組みを構築する必要があります。
- 魅力的な都市の形成に向けては、地域の特性に応じた個性豊かな景観の保全や創造のため、地域住民と協働して景観形成を進めるための計画や制度の充実を図る必要があります。

関連する計画

- 名張市都市マスタープラン
- 名張市総合都市交通マスタープラン



第2章 基本計画

2 基本施策

すすめる

「すすめる」とは、前進させること、更に高めること。

消防・救急体制、社会づくりを支える土地利用、行政改革、デジタル改革及び行政運営など。

様々な「すすめる」に取り組みます。

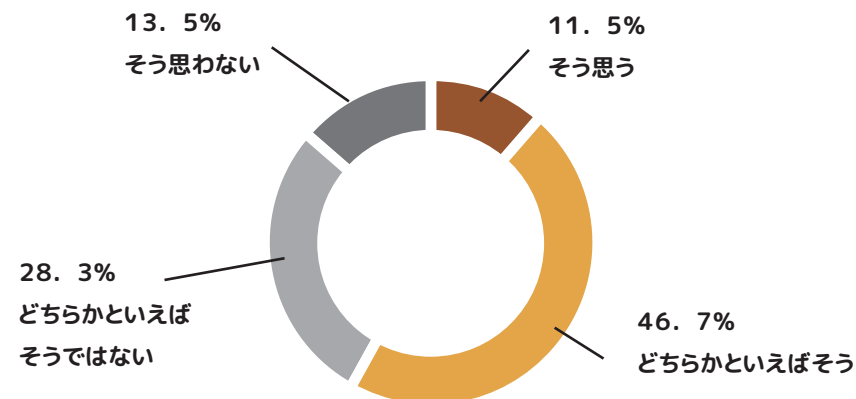
▶ 消防・救急体制の強化をすすめます

▶ 未来を見据えた社会づくりを支える適正な土地利用をすすめます

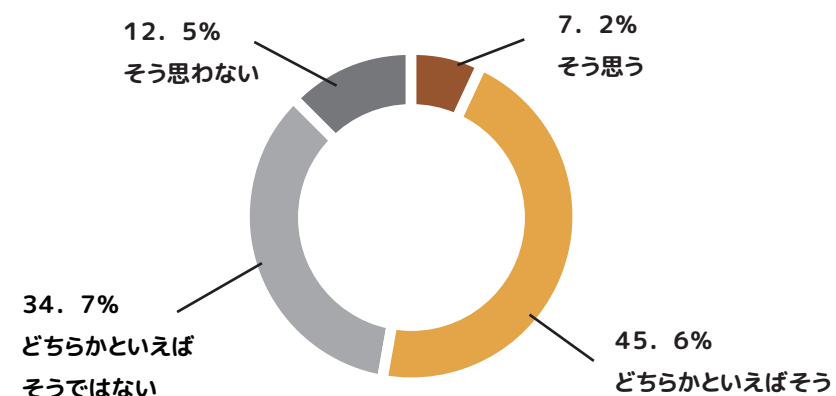
▶ 社会変化に対応した行政改革とデジタル改革をすすめます

▶ 持続可能な財政運営をすすめます

救急救助体制が充実していると思いますか



お住まいの地域における土地利用について、住民の理解と参加のもとに秩序ある土地利用が行われていると思いますか





すすめる

消防・救急体制の強化をすすめます



この施策で目指すもの

複雑・多様化する災害や高齢化により増加する救急需要に対応するため、車両や資機材、消防水利など消防施設の計画的な整備と隊員の教育訓練に取り組むとともに、消防広域化も見据えながら県及び隣接市との連携・協力を推進し、消防・救急体制の充実強化を図ります。

また、消防団や関係団体と連携しながら、防火・防災意識の高揚と応急手当の普及を推進するとともに、消防団員の減少を抑制し、地域防災力の強化を目指します。

取組の内容

- ▶ 消防施設や隊員教育の充実と、隣接市との連携・協力などによる消防・救急体制の強化に取り組めます
- ▶ 火災予防対策の強化及び防火・防災意識の高揚と応急手当の普及啓発に取り組めます
- ▶ 消防団への認知や理解を深めるPR活動と、消防団員が活動しやすい環境の整備に取り組めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
消防・救急活動に安心を感じている市民の割合	58.2%	63%
住宅火災への備えをしている市民の割合	82%	85%
市民等による心肺蘇生法の実施割合	50.7%	60%

現状と課題

- 複雑・多様化する災害に迅速かつ的確に対応するため、警防・救助体制の強化に取り組む必要があります。
- 増加し高度化する救急事案に的確に対応するため、救急体制の強化に取り組む必要があります。
- 市民等の速やかな救命処置による救命率向上を図るため、応急手当の普及啓発に取り組む必要があります。
- 火災による死者数の低減や被害の軽減を図るため、住宅防火対策の推進や、事業所などへの立入検査や違反是正指導など、火災予防対策の強化に取り組む必要があります。
- 消防団員の減少抑制や加入促進を図るため、消防団への認知や理解を深めるPR活動と施設や装備の充実、また、企業等の協力など団員が活動しやすい環境整備に取り組む必要があります。

すすめる

未来を見据えた社会づくりを支える適正な土地利用をすすめます

この施策で目指すもの

本格的な人口減少社会や少子高齢化の到来を見据え、人々の営みを支える基盤となる土地の利用については、「公共の福祉」の優先を基本として、自然環境、歴史や文化、社会的な特性を活用しつつ、都市的な土地利用、農地及び森林等の適切な保全、自然公園等の保全等多様な主体の協働により、適正かつ計画的な利用や管理を進めるとともに、国の定める「土地基本方針」も踏まえ、基盤情報である地籍の明確化を進めます。

取組の内容

- ▶ 土地利用に関する計画や施策について総合的な調整を行い、秩序ある土地利用を進めます
- ▶ 土地の基盤情報である地籍の早期明確化を図るため、計画的・多角的な地籍整備を進めます
- ▶ 用途地域の指定・変更を進めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
秩序ある土地利用が行われていると感じる市民の割合	52.8%	55%
地籍調査の進捗率	17%	20%



現状と課題

- 「暮らしのまち」としての魅力を高めるため、都市機能の集約、住環境の保全、営農環境の充実、自然環境の保護など、自然の中で都市と農村が調和を図り、風土を守っていくために、地域や住民参加により土地利用を検討する必要があります。
- 少子化による人口減少により、都市のスポンジ化や耕作放棄地の増加など、都市部と農村部の双方において人口や機能の低密度化が進行しています。広範囲に分布した人口や機能を集約し、メリハリのある土地利用を進める必要があります。
- 関係行政機関や庁内関係部署と連携し、事前防災の観点から、災害リスクの高い地域や、土地活用や土地の適正管理の観点から土地利用の高い地域における早期の地籍整備を進め、持続可能な社会づくりを進める必要があります。

関連する計画

- 名張市都市マスタープラン
- 名張市農業マスタープラン
- 名張市森林整備計画
- 名張市地籍調査事業実施計画



すすめる

社会変化に対応した行政改革とデジタル改革をすすめます

この施策で目指すもの

少子高齢化や人口減少の進展に伴う社会課題に対応するため、行政・デジタル改革を進めます。

限られた経営資源の中で持続可能な行政運営の実現のため、デジタル技術による行政機能の向上と市民視点に立った快適で利便性の高い行政サービスの提供を目指します。

取組の内容

- ▶ 行政運営における最適化を推進するため、民間活力等の活用や公共施設マネジメントに取り組みます
- ▶ 職員の意識改革と人材育成に取り組みます
- ▶ 行政のデジタル化を推進し、便利で快適な行政サービスの実現に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
電子申請届出に対応するサービスの件数	14件	35件
行政サービスの質や利便性について満足していると感じる市民の割合	令和5年度の調査値※	基準値より増加

※市民意識調査にて新規調査を行います。



現状と課題

- 厳しい財政状況の中、行政サービスの質と安全を維持していくため、更新時期を迎える多数の公共施設等について長寿命化や民間活力の導入など計画的にマネジメントを行っていく必要があります。
- 限られた職員数で多様化するニーズや複雑化する行政課題に対応していくためには、効率的・効果的に業務を進められる組織づくりに取り組むとともに、変化する業務に対応できる質の高い人材を育成していく必要があります。
- 急速に進化するデジタル化への遅れが行政サービスの低下につながらないように、行政のデジタル化を推進して、業務を最適化した上で行政手続を含めた業務全体のデジタル化を図る必要があります。

関連する計画

- 名張市公共施設等総合管理計画
- 名張市人材育成基本方針
- 名張市定員管理方針
- （仮称）名張市 DX 推進ビジョン（策定中）

すすめる

持続可能な財政運営をすすめます

この施策で目指すもの

健全な財政運営を行うため、基金の取り崩しや市債の借入に頼らない歳入に見合った予算編成を原則とし、財政調整基金の計画的な積立や市債残高の圧縮に取り組み、社会経済動向等に左右されない安定した行政サービスを提供できる持続可能な財政運営を進めます。

取組の内容

- ▶ 将来負担の軽減を意識した財政構造の転換に取り組みます
- ▶ 財政規律を重視した財政運営に取り組みます
- ▶ 自主財源の確保に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
市債残高（臨時財政対策債を除く）	197億7,800万円	170億1,600万円
将来負担比率	161.6%	139%

11 住み続けられるまちづくりを



現状と課題

- 名張市の財政状況は、これまで様々な行財政改革に取り組んできましたが、経常収支比率や将来負担比率は依然高い状況が続き、財政構造の弾力性を欠いた中で重い将来負担を抱えています。今後も少子高齢化への対応や老朽化した公共施設の維持更新経費に加え、新たな行政課題に対応していく必要があることから、投資事業の抑制による公債費の削減を図るなど、将来負担を減らしていく必要があります。
- 持続可能な財政運営の指針とするために策定した中期財政計画に基づき、多様化・高度化する市民ニーズや新たな行政課題に的確に対応していくため、限られた財源を真に必要な事業に充てる必要があります。
- 安定した行政サービスを継続するため、市税の収納率を高い水準で維持するとともに、ふるさと納税等の税外収入を含めた財源の確保に取り組む必要があります。

関連する計画

- 中期財政計画



第2章 基本計画

2 基本施策



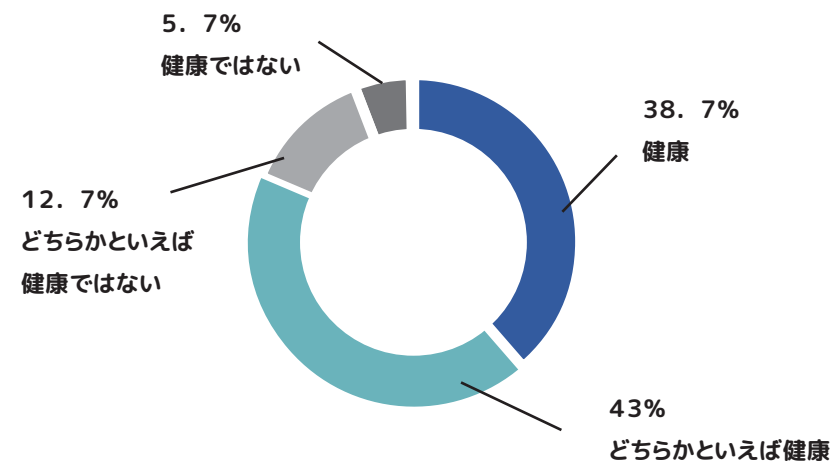
「ささえる」とは、維持すること、支援すること。

健康、地域医療、高齢者の安心した生活や障害者の自立と社会参加、安全な水道水のある暮らしなど。

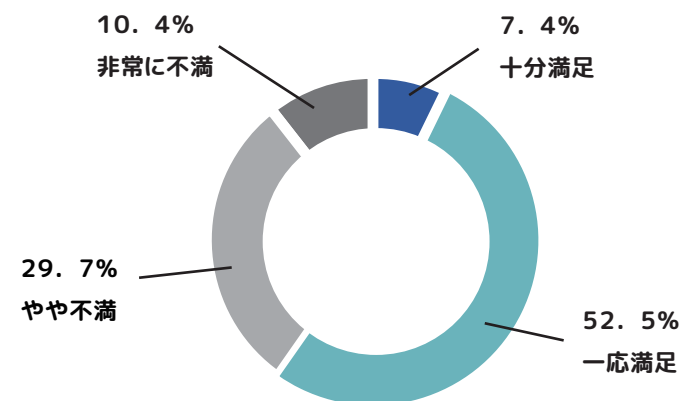
様々な「ささえる」に取り組みます。

- ▶ 市民の健康をささえます
- ▶ 地域の医療をささえます
- ▶ 高齢者の安心した生活をささえます
- ▶ 障害者の自立と社会参加をささえます
- ▶ 安全な水道水で市民の暮らしをささえます

現在、健康ですか



地域医療機関での地域医療体制について満足していますか



ささえる

市民の健康をささえます



この施策で目指すもの

健康寿命の延伸を図り、市民が住み慣れた地域で自立した社会生活を営むことを目指し、生活習慣の改善や食育等の推進により、社会全体で支え合いながら、市民が主体的に健康づくりに取り組むための環境整備や仕組みづくりを進めます。

取組の内容

▶ 健康寿命の延伸に向けた疾病予防・健康づくりに取り組みます

▶ 生涯を通じた歯と口腔の健康づくりに取り組みます

▶ 地域の特性を活用した食育に総合的、計画的に取り組めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026 年時点）
健康な暮らしを送っていると感じている市民の割合	81.7%	85%
特定健診（国保）受診率	44%	60%
過去1年間に歯科検診を受診した市民の割合	令和5年度の調査値※	基準値より増加
朝食を食べている児童・生徒の割合	児童 95.4% 生徒 93.0%	児童 97.0% 生徒 97.0%

※市民意識調査にて新規調査を行います。

現状と課題

- 高齢化や社会生活環境の急激な変化に伴い、生活習慣病の増加等が問題となっており、健康づくりは市民一人一人による理解と実践が重要であり、健やかな生活習慣の形成に向け、市民が主体的に健康づくりに取り組むための環境・仕組みづくりが必要です。
- 歯と口腔の健康が体全体に及ぼす影響が明らかになってきていることから、生涯を通じた歯と口腔の健康づくりを推進するための取組が必要です。
- 家庭状況や生活の多様化による食生活の変化への対応、地域の特性を活用した食育の実践等を通じた食育の推進のためには、幅広い分野にわたる関係機関や地域との連携による取組が必要です。

関連する計画

○健康なばり21計画・歯と口腔の健康づくり計画

○名張市ばりばり食育推進計画

ささえる

地域の医療をささえます



この施策で目指すもの

市民が安心して適切な医療を受けることができるよう、伊賀地域をはじめとする圏域内の関係機関との連携強化や機能分化を進めます。

また、名張市立病院の医療体制の維持・充実に取り組み、安定した地域医療体制の整備を進めるとともに、平時から新興感染症の感染拡大時などに備えた体制整備を進めます。

取組の内容

- ▶ 地域の医療機関との機能分化・連携を強化し、安心して信頼できる地域医療体制の構築に取り組みます
- ▶ 名張市立病院の医療体制の維持・充実と、患者サービス向上に取り組みます

現状と課題

- 地域医療体制の充実や新興感染症の拡大時の対応などに向けて、限られた医療資源を効率的かつ効果的に機能させる必要があります。
- 伊賀地域における安いで安定した救急医療体制を確立するため、関係機関と連携し、地域内の病院の機能分化を進める等、地域医療体制の構築に取り組む必要があります。
- 住み慣れた地域で、最期まで安心して暮らせるよう、かかりつけ医師、歯科医師、薬剤師等を持ち、医療に関する相談等ができる地域医療体制づくりが求められます。
- 名張市立病院の医療体制の維持・充実を図るため、医師確保等のための対策のほか、経営改革を進める必要があります。

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
地域医療機関（開業医や公立病院等）での現在の医療体制に満足している市民の割合	59.9%	63%
かかりつけ医を決めている人の割合	73.7%	85%
地域医療機関などから市立病院への1か月の紹介件数	497件	600件
市立病院から地域医療機関への1か月の紹介件数	521件	600件

ささえる

高齢者の安心した生活をささえます

この施策で目指すもの

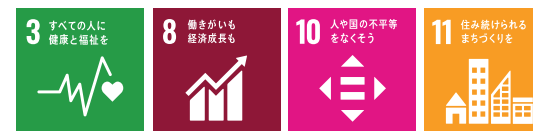
高齢者が慣れ親しんだ地域で、いつまでも生き生きと、自分らしく日常生活を営むことができるよう、福祉サービスや介護保険サービスの充実を図り、高齢者が地域で安全で安心して暮らすことができる生活の基盤を支えます。

取組の内容

- ▶ 高齢者の地域での生活支援に向けて、医療や健康づくり、介護予防の一体的な推進に取り組みます
- ▶ 医療・介護ニーズに対応した在宅医療と介護との連携に取り組みます
- ▶ 住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、認知症ケアの推進に取り組みます
- ▶ 介護保険制度の適正かつ安定的な運営に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
日常生活の中で生きがいを感じている高齢者の割合	75.8%	81%
認知症サポーターの養成数【延べ人数】	11,354人	15,000人



現状と課題

- 高齢者が、慣れ親しんだ地域で生き生きと生活できるよう、地域と連携して健康づくりや介護予防に取り組む必要があります。
- 今後、中・重度の要介護者の増加に伴い、在宅での医療を必要とする高齢者の増加が見込まれるため、医療・介護ニーズに対して、必要なサービスが提供できる体制づくりが必要です。
- 少子高齢化が急速に進む中で、高齢者のみで構成される世帯が増え、日常生活を営むために多様な支援が必要とされています。高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるよう、介護人材の不足への対応や介護予防・生活支援サービスの充実など、各地域の実情に応じた対応が必要です。

関連する計画

- 名張市地域福祉計画
- 名張市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画
- 健康なばり21計画・歯と口腔の健康づくり計画

ささえる

障害者の自立と社会参加をささえます

この施策で目指すもの

障害者が地域で自立した生活を送れるよう、農福連携の取組や就労支援、障害者の理解促進に向けた取組を進めます。

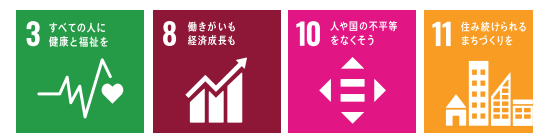
複雑化、多様化するニーズに対し、分野を越えた様々な機関との連携により支援の充実を図り、障害者を含めた様々な人が生きがいを持って社会参加ができる仕組みづくりを進めます。

取組の内容

- ▶ 障害特性やライフステージに応じた継続的・包括的な支援の推進に取り組めます
- ▶ 共生意識にあふれた地域社会の構築に取り組めます
- ▶ 障害がある人の自立を支援する就労体制の充実に取り組めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
地域で自立した生活につながった障害者の数【延べ人数】	5人	25人
一般就労につながった障害者の数【延べ人数】	12人	60人



現状と課題

- 障害者の支援は、乳幼児期から高齢期まで各ライフステージに応じた適切な支援を受けられるよう、各機関と連携し、一貫した支援を図る必要があります。
- 共生社会を目指した障害者理解の推進に取り組んでいますが、障害者への虐待事案の増加等もみられることから十分とはいえず、新たな観点での啓発活動等による取組を進める必要があります。
- 障害者本人への支援だけでなく高齢化する家族への支援等、複雑化する多様なニーズに対して、支援者のスキルアップと関係機関との連携や横断的な対応が求められています。
- 障害者の地域での自立した生活を支援するため、活躍する場の提供や支援者の育成、障害者の個性に応じた就労支援とその後の就労継続・就労定着の支援が重要となります。

関連する計画

- 名張市障害者福祉計画
- 名張市障害福祉計画

ささえる

安全な水道水で市民のくらしをささえます



この施策で目指すもの

将来にわたって良質な水道サービスの提供を続けていくため「第2次名張市水道ビジョン」に基づき、老朽化した水道施設の更新・改良を進めるとともに耐震性の向上を図るなど、災害に強い水道施設を整備するほか水質管理体制の充実により、安定的に安心して飲む水道水を供給します。

取組の内容

- ▶ 老朽化した水道施設の計画的な更新と耐震化に取り組みます
- ▶ 水質管理の徹底により、安全な水道水の供給に取り組みます
- ▶ 持続可能な事業運営のために必要な財政基盤の強化に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
上水道サービスに満足している市民の割合	77.1%	79.1%
水道水のおいしさ（におい）に関する指標【カビ臭濃度】※	4 ng/L	3 ng/L 以下
基幹管路における耐震管全体の長さ	10,371 m	11,473 m

※カビ臭濃度の国の水質基準は10 ng/Lです。1 ng（ナノグラム）は10億分の1 g（グラム）

現状と課題

- 経年化による水道管等の更新対象の施設はますます増加し、浄水場などで使用している機械・電気の設備は更新期間が短く、順次更新していく必要があります。
- 水源となるダムや川の水質を的確に把握し、水道水のおいしさやにおいに影響する原因物質を取り除くなど、浄水場における水質管理を維持していく必要があります。
- 人口減少や節水技術の進展による水需要の減少、社会情勢の影響による経費の増加など財源確保が困難な状況となっており、中長期的な財政見通しを踏まえた事業運営が必要となります。

関連する計画

- 名張市水道ビジョン
- 名張市水道事業基本計画
- 名張市水安全計画
- 名張市水道事業経営戦略



ととのえる

第2章 基本計画

2 基本施策

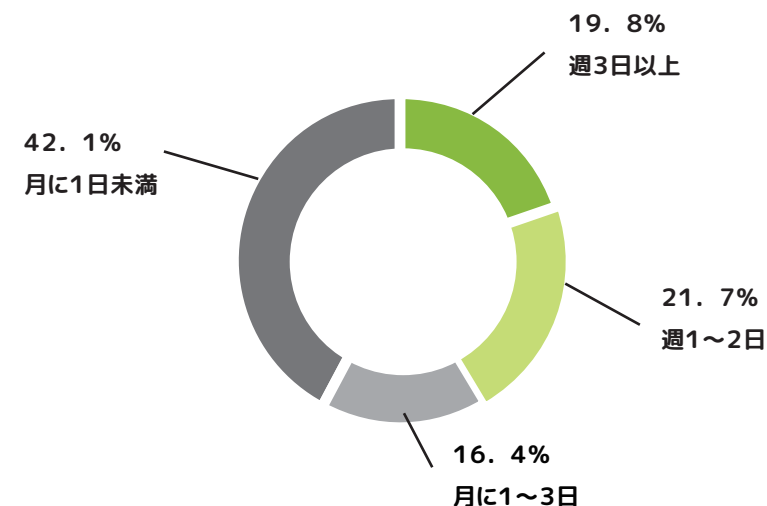
ととのえる

「ととのえる」とは、点検して望ましい状態にしておくこと。
スポーツ環境、活動の憩いの場となる緑地や公園、住環境、下水道による快適な住環境など。

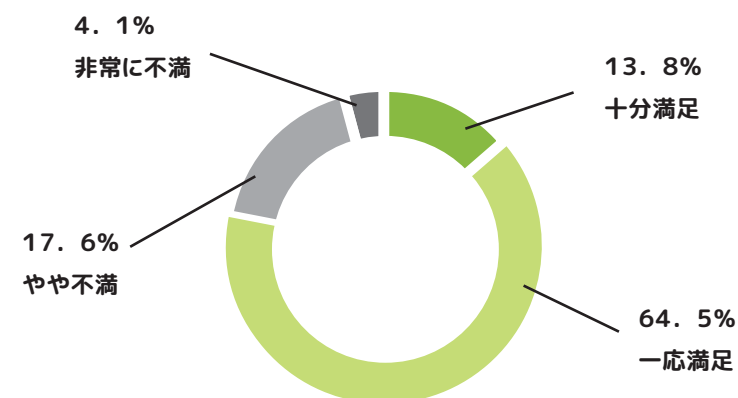
様々な「ととのえる」に取り組みます。

- ▶ 生涯スポーツができる環境をととのえます
- ▶ 活動や憩いの場となる緑地や公園の環境をととのえます
- ▶ 家や住環境をととのえます
- ▶ 下水道で快適な住環境をととのえます

どの程度スポーツに親しんでいますか



身近にある水辺や緑の環境に満足していますか





この施策で目指すもの

生涯を通して自主的にライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動に親しみ、健康で、はつらつとした暮らしを営むことができる環境をつくるため、スポーツ関係団体や地域との連携を密にし、生涯スポーツ社会の実現を目指します。

そして、利用者のニーズを把握しながら、ニュースポーツの普及やイベントの開催、スポーツ・レクリエーション施設の整備について計画的に進めていきます。

また、スポーツ技術の向上や競技スポーツ人口の拡大を図るため、各種大会の開催や指導者の育成などに努めます。

取組の内容

- ▶ ライフスタイルに応じたスポーツ・レクリエーション活動の充実に取り組みます
- ▶ スポーツ活動を通じたまちづくりの活性に取り組めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
週に1回以上スポーツに親しんでいる市民の割合	41.5%	48%
市民1人当たりの年間体育施設利用回数	3.8回	6回
総合型地域スポーツクラブの認定団体数	5団体	7団体

現状と課題

- 新しい生活様式の中で、利用者等全ての関係者が安心・安全で継続してスポーツ活動が可能となるよう、また、スポーツイベントが開催できるよう、体育施設の維持管理に取り組む必要があります。
- 名張市体育施設の整備（市総合体育館、市民陸上競技場、名張市民プール（ろ過機・更衣室等）、照明施設のLED化等）を利用状況に即した中で、効果効率的に取り組む必要があります。
- 新たな総合型地域スポーツクラブの創設につなげていくため、市内の未設置地域において、アプローチを進めていく必要があります。

関連する計画

- 名張市教育大綱
- 名張市スポーツ推進計画



活動や憩いの場となる緑地や公園の環境をととのえます

この施策で目指すもの

身近にある都市公園・親水公園等の適切な維持管理、住宅団地の緑地の機能である緑空間の創出を推進し、快適な憩いの空間確保に取り組むとともに、地域づくり組織をはじめ、市内のボランティア団体などの多様な主体と連携・協力し、適切な公園施設等の維持管理を進めます。

また、ユニバーサルデザインの理念に基づき、誰もが安心して利用できる都市公園の整備を目指します。

取組の内容

- ▶ 多様な主体と連携して、快適な緑空間の創出に取り組めます
- ▶ 誰もが安心して利用できる公園整備に取り組めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
水辺や緑とのふれあいに満足している市民の割合	78.3%	80%
市内の公園の内、地域づくり組織等が維持管理をしている割合	81.2%	85%



現状と課題

- 地域づくり組織による良好な緑空間、快適な憩いの空間創出の取組では、高齢化・担い手不足などの将来の課題を捉えた持続可能な維持管理方針を定め、引き続き、地域づくり組織など住民全体の維持管理により、利用頻度・愛着の高い緑地・公園を目指す必要があります。
- 限られた行政資源の中できめ細かく公園・緑地の維持管理をしていくのは困難であるため、今後の維持管理方針を検討する必要があります。
- 公園遊具の保守点検結果を踏まえて長寿命化計画を更新することが必要です。
- 台風等の風水害により、公園・緑地の樹木が倒木するおそれのある危険木を事前に伐採するなどの取組をする必要があります。

関連する計画

- 名張市公園施設長寿命化計画

ととのえる

家や住環境をととのえます

11 住み続けられるまちづくりを



この施策で目指すもの

災害に強い住宅、高齢者や障害者が暮らしやすい住宅、子育て世帯が移住定住できる住宅など、住宅の「質」の向上を目指すために、住宅の耐震化やリフォームなどによる性能改善及び有効活用を推進するとともに、住宅確保要配慮者のための住宅を確保し、誰もが安全で安心して快適に住み続けられるよう、少子高齢化社会に対応した住環境を整備します。

取組の内容

- ▶ 耐震性が不足する木造住宅の耐震化を促進し、災害に強いまちづくりに取り組みます
- ▶ 空き家の活用促進並びに適正管理や危険空き家の除却等を推進し、住環境の保全に取り組みます
- ▶ 住宅確保要配慮者に対する民間賃貸セーフティーネット住宅や市営住宅の供給確保に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
現在の住環境について、生涯、安心して快適に暮らすことができると思う市民の割合	63.4%	65%
1981（昭和56）年以前建築の木造住宅耐震診断受診率	24.1%	30%
空き家バンク登録物件における1年間の成約数	27件	32件

現状と課題

- 世代交代が進むに連れて利用されなくなった住宅が適切に扱われなくなり、管理不全な空き家となって住環境に悪影響を与えている事例が増えていることから、危険空き家対策及び空き家の利活用対策を更に進める必要があります。
- 木造住宅の耐震補強等について、補強工事は建物所有者の費用負担が高額となることから、施工をためらう場合があります。
- 市営住宅の老朽化が進み、空き住宅が増えていることから、長寿命化工事を実施し供給確保を図る住宅と用途廃止する住宅に分け、用途廃止する住宅については除却した上で跡地の利活用を検討していく必要があります。

関連する計画

- 名張市営住宅等長寿命化計画
- 名張市建築物耐震改修促進計画
- 名張市空家等対策計画

ととのえる

下水道で快適な住環境をととのえます

この施策で目指すもの

快適な生活環境の形成と河川等の水質保全のために、名張市下水道マスタープランに基づき、公共下水道の新規整備や住宅地污水处理施設の接続移管をはじめ、地域の状況に応じた合理的な整備手法による下水道事業を進めます。

また、各污水处理施設の適正な維持管理や持続的な事業管理に取り組めます。

取組の内容

- ▶ 公共下水道の未普及地域の早期解消に向けて中央処理区域の拡大整備に取り組めます
- ▶ 既存施設の耐震化や老朽化対策を進めるとともに適正な維持管理に取り組めます
- ▶ 持続可能な事業運営のため中長期的な視点に基づく計画的な経営に取り組めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
生活排水を適切に処理する環境が整えられているという市民の割合	80.5%	82.4%
公共下水道等を利用できる市民の割合	70.8%	75.6%
下水道の処理区域内で実際に下水道に接続している人口の割合	90.1%	90.8%



現状と課題

- 公共下水道中央処理区域では、未整備地の早期解消が必要です。また、雨水などの混入が多い民間の污水处理施設は下流施設に支障を及ぼすことから、移管前の対策が課題となっています。
- 下水道施設の維持管理に関連する計画に基づいて、既存施設の耐震化や老朽化対策に取り組むとともに、人口減少に応じた施設の規模・処理方式の適正化や再編・統廃合などの検討が必要です。
- 公共下水道区域の拡大整備による事業推進に加えて、施設の老朽化に伴う更新費用及び維持管理経費の増加が見込まれることから、計画的な経営に取り組む必要があります。

関連する計画

- 名張市下水道マスタープラン
- 名張市下水道ストックマネジメント計画
- 名張市農業集落排水施設機能強化対策事業計画
- 名張市下水道事業経営戦略



第2章 基本計画

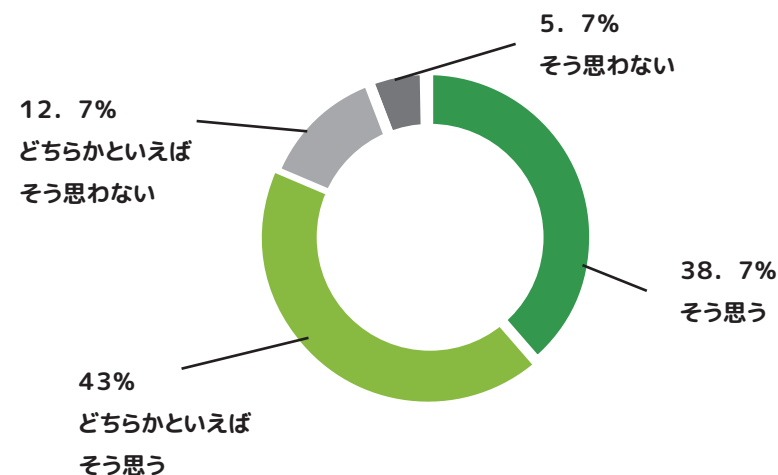
2 基本施策

まもる

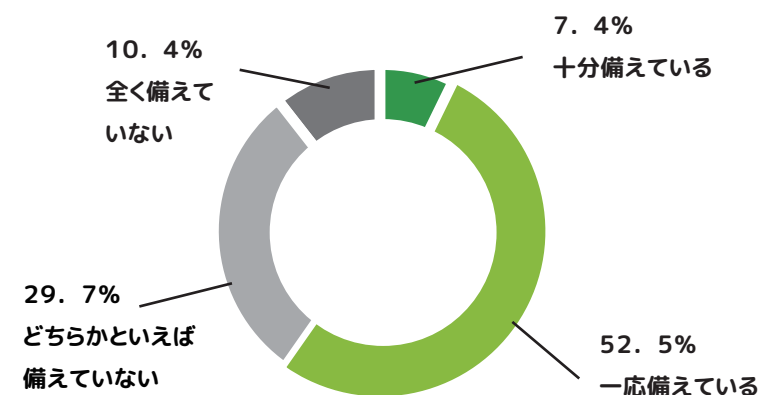
「まもる」とは、大切なものとして保護する、大事に保つこと。
人権、犯罪、防災、道路、生活環境など生活の基盤など。
様々な「まもる」に取り組みます。

- ▶ みんなの人権をまもります
- ▶ 犯罪や交通事故からまもります
- ▶ 防災・減災でまちをまもります
- ▶ 生活の環境をまもります
- ▶ 道路をつくり、道路をまもります

あらゆる差別をはじめとする差別を解消するために自らできることを考えて取り組みたいですか



日ごろから地震などの災害に対し備えを行っていますか





まもる

みんなの人権をまもります

この施策で目指すもの

人権尊重のまちの実現に向けて、全ての分野において一人一人が互いの個性や価値観の違いを認め合い、誰もが自己決定や自己実現を妨げられることなく、共に支え合い、助け合いながら、自分らしく生き生きと暮らせるよう、差別をなくす取組を進めます。

取組の内容

- ▶ 人権意識の向上のために人権教育や人権啓発を推進します
- ▶ 人権相談窓口の周知と人権センターなど関係機関との連携強化による相談体制の充実に取り組みます
- ▶ 部落問題への正しい理解と認識を深めたり、インターネット上の人権問題に対して学習機会を提供するなど、多様な主体による人権のまちづくりに取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
部落差別をはじめとするあらゆる差別を解消するため、自らができることを考え取り組みたいと思っている市民の割合	68.5%	72.5%
人権に関する講座の参加者数（市担当部署関連のもの）	258人	458人



現状と課題

- 市民が人権に関する正しい知識を身に付け、人権を守り差別をなくそうとする主体としての意識や態度の形成につながるよう、人権教育や人権啓発を進める必要があります。
- 人権侵害に対応する各種相談窓口の周知やそれらの相談機関との連携を強化することによる機能の充実を図るとともに、相談内容の集約・分析を行い施策へ反映させることが必要です。
- 市民の自主的な取組を支援するとともに、ボランティアや関係団体との協働による人権のまちづくりが必要です。
- インターネットを悪用した人権侵害は深刻な状況です。モニタリングによる悪質な書込みや誤った情報の削除要請とともに、インターネット利用者が責任を持って利用していけるよう啓発を強化します。

関連する計画

- 名張市人権施策基本計画



この施策で目指すもの

警察や各地域で行われている防犯・交通安全の取組とも連携し、様々な主体による地域ぐるみの見守りの目が行き届いている環境づくりに努め、子どもや高齢者など全ての地域住民を犯罪や交通事故などから守り、安全に住み続けられるまちづくりを進めます。

取組の内容

- ▶ 関係機関や地域と連携した防犯活動等に取り組みます
- ▶ 消費者生活に関する相談体制の充実、啓発に取り組みます
- ▶ 市民の交通安全意識の向上に努め、交通事故防止に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
犯罪に対して不安感を持っている市民の割合	56.2%	53.5%
交通安全啓発活動等への参加人数	620人	900人

現状と課題

- 名張警察署管内における刑法犯発生件数は減少傾向にあるものの、今後も複雑・多様化する犯罪発生への不安や恐れがあるため、犯罪の起きにくい、巻き込まれないような安心・安全な地域づくりに取り組む必要があります。
- 高齢者の徘徊等により行方不明になるケースが増え、警察や関係機関、地域による「地域SOS」としての合同捜索活動が行われています。日頃から地域ぐるみの見守り体制等の重要性についての認識が深まっています。
- 多岐にわたる消費者トラブルや、年々手口が巧妙化する特殊詐欺の被害が絶えることはありません。効果的な消費者トラブルや特殊詐欺の被害防止策を継続する必要があります。
- 警察や関係機関と連携し、季節ごとの交通安全活動や街頭啓発を通じて、市民の交通安全意識の向上と交通ルールの遵守に向けた取組を継続する必要があります。
- 地域からの交通安全施設要望や名張市通学路交通安全プログラムに基づく合同点検による要対策箇所に対して、関係機関と連携し対処していく必要があります。



この施策で目指すもの

台風や線状降水帯などによる豪雨、いつ起こってもおかしくない南海トラフ地震などの大規模自然災害への対応力強化を図ります。

災害時、誰一人取り残さないという視点に立ち、市、関係機関、地域が協働しながら、平時からの備えを十分に行い、非常時にそれぞれの役割が果たせるようまちづくりを進めます。

取組の内容

- ▶ 様々な自然災害に対応できるよう市の災害対応力向上に取り組めます
- ▶ 関係機関と確実に連携が取れるよう防災体制の整備に取り組めます
- ▶ 地域住民等の防災意識高揚のため普及啓発に取り組めます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
地震等の災害への備えをしている市民の割合	41.7%	50%
1年間における防災研修会等の参加者数	108人	625人
地区防災計画を策定している地域づくり組織数	0地域	8地域

現状と課題

- 風水害や南海トラフ地震などの最悪の事態を想定し、災害発生時に市、地域、関係機関がそれぞれの役割を果たせるよう連携体制の構築、防災意識の向上、人材育成に取り組む必要があります。
- 災害時における対応は多岐にわたるとともに、フェーズに応じた対応を行うため、関連計画等の策定や見直しを継続し、災害対応能力の更なる強化を図る必要があります。
- 災害時における円滑な避難を行うため、関係機関や地域自主防災組織等とも連携し、配慮が必要な高齢者や障害者を含め、誰もが確実に避難ができる体制づくりを進める必要があります。
- 国が進める名張川河川改修事業や宇陀川流域の土砂災害を防止する砂防えん堤事業、木津川ダム総合管理所が実施する青蓮寺、比奈知、室生の3ダムによる洪水調節など、関係機関との連携によるソフト・ハード両面の防災・減災対策に総合的に取り組む必要があります。

関連する計画

- 名張市地域防災計画
- 名張市国土強靱化地域計画



まもる

生活の環境をまもります

この施策で目指すもの

美しい水、空気、土は、わたしたちの安心した生活環境を保つ根幹となるものです。良好な水質の保全や大気汚染、土壌汚染の防止を図り、生活に影響を及ぼす環境負荷の低減に努め、健康で安心した暮らしの基盤を確保します。

また、騒音、振動、悪臭は、落ち着いた日常生活に不快感をもたらすものとなるため、防止対策を講じ、安らぎのある快適な生活環境をまもります。

取組の内容

- ▶ 工場等の事業活動に伴う公害の未然防止に取り組みます
- ▶ 水と空気がきれいな生活環境の保全に取り組みます
- ▶ 人と自然が共生する自然環境の保全に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
名張川家野橋におけるBOD※の年間平均値	1.0mg/L	1.0mg/L
自動車騒音調査による基準達成戸数の割合	98.9%	100%

※BOD・・・生物学的酸素要求量（生物が水中にある有機物を分解するのに必要とする酸素の量）



現状と課題

- 名張川の水質は、公共下水道や農業集落排水などの整備により、水質改善が進んでいます。今後も、生活排水などから水質汚染等のリスクに対応するため、定期的な水質検査を実施していきます。
- 事業活動により騒音・振動の発生は、法令による規制基準を満たしており、今後も各事業場と協力し、発生の抑制に努めるとともに、事業者の自主的な規制基準等を定めた環境保全協定の締結を進めていく必要があります。
- 近隣の騒音対策については、規制値などは定められていないものの、住民が互いに周囲への配慮を行うことなどにより、環境基本法に定める環境基準が守られるよう啓発を行っていく必要があります。

関連する計画

- 名張市快適環境基本計画

まもる

道路をつくり、道路をまもります



この施策で目指すもの

幹線道路のネットワーク化による代替機能の向上と広域道路網の整備促進を進めるとともに、今後、高齢化社会の進展など、多様化する道路交通需要に的確に対応するため、ユニバーサルデザインを基本とした計画による道路空間の質の向上を進めます。

橋梁の法定点検を継続し、予防的な修繕を実施する予防保全型へと管理手法の転換を図り、既存橋梁に対して効率的・効果的なメンテナンスサイクルを継続します。

また、地域と連携した維持管理や事業の選定を進めるとともに、事業効果の検証を行いながら生活道路の整備を進めます。

取組の内容

- ▶ 広域的な地域の連携による経済・社会活動を実現する幹線道路の整備促進に取り組みます
- ▶ ユニバーサルデザインに基づく、安心・安全な道路整備に取り組みます
- ▶ 橋梁の法定点検を継続し、予防保全型の維持管理に取り組みます
- ▶ 地域と連携し、安全で快適な道路環境の形成に取り組みます

取組の評価

評価する内容	基準値	目標値（2026年時点）
市内の道路整備が進み、移動しやすくなったと感じている市民の割合	48.9%	60%
計画期間内道路整備延長	40.5%	70%
地域づくり組織等が主体となって、道路等の維持管理に携わっている箇所数	66件	73件

現状と課題

- 道路整備には多大な予算の確保が必要であり、厳しい財政状況が続く中においては引き続き、早期に事業効果が発現できる整備区間の選定や整備手法の検討が必要となります。
- 自転車歩行者の安心・安全を確保し快適な歩行空間を創出するため既存歩道の面的な整備や歩道・歩行帯の新設、また、車両の快適な走行性を確保するため、歩車道とも危険度の高い路線を最優先に整備を進める必要があります。
- 橋梁の予防的な維持管理を継続するには、メンテナンスサイクルを構築し、確実に実施していくことが重要であり、橋梁点検を含めた必要な予算を計画的かつ継続的に確保する必要があります。
- 生活道路の維持・管理については、引き続き地域と連携し取り組んでいくものの、担い手不足の地域も多いことから、地域の実情に応じた対応が必要となってきます。また、局部的な道路改良についても真に必要な整備かどうかを見極め、有益な効果が発現する整備を優先する必要があります。

関連する計画

- 名張市橋梁長寿命化修繕計画
- 名張市総合都市交通マスタープラン

第 3 章

地域別計画

市内 15 地域の地域づくり組織において、各地域の将来像を描いたまちづくりの指針となる「地域ビジョン」を策定しています。

本総合計画の「なばり新時代戦略」を実行していくためには地域との協働は必要不可欠です。

それは「地域ビジョン」においても同様です。

地域別計画は、「地域ビジョン」を基に「なばり新時代戦略」の目指す姿と地域共生社会の実現のために「なばり新時代戦略」と「地域ビジョン」とをつなぐものです。



第3章 地域別計画

名張地区まちづくり協議会

現状と課題

名張地域は、名張藤堂家邸跡や江戸川乱歩生誕地、初瀬街道のまち並み、やなせ宿などの「歴史資源」や、長い歴史の中で育まれてきた愛宕の火祭りをはじめとする各地区の祭礼などの「伝統行事」、更には築瀬水路やまちを包むように流れる名張川、外周に広がる山々といった「自然資源」など豊かな地域資源を数多く有しています。

古くから市の中心市街地として、また、生活文化拠点としてその役割を担ってきたものの、近年は商業の空洞化、少子高齢化により活気や賑わいが薄れている傾向にあります。



まちづくりの将来像

「名張の原風景と人情が息づく魅力あるまち」

ここには、様々な地域資源があり名張のまちの原風景があふれています。

今となっては特別となってしまったまち並みを生かしなが、人々が集い、賑わいのあるまちの再生に取り組みます。

また、ここに暮らす人が世代を問わず安心していきいきと過ごせるよう、人と人が支え合い、誇りと愛着の持てる持続可能なまちづくりを目指します。



まち歩きをする「ひやわん」



花いかだ（城下川）



竹行灯（城下川）

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 地域文化や歴史資源を活かしたまちづくり

名張藤堂家邸、江戸川乱歩生誕地、やなせ宿等の歴史的・文化的資源を活かした体験事業、観光イベント等を実施し、内外へ魅力発信を行いながら、次世代へこれらの財産を引き継いでいきます。

▶ 豊かな自然を大切に散策したくなるまちづくり

名張川や築瀬水路という水辺の景観がまちと一体になっている環境を活かし、水辺空間の魅力や周遊コースの発信を行い、住む人や訪れる人が自然に親しめる環境づくりを推進します。

▶ 活気あふれた賑わいのあるまちづくり

地域住民、商工業者、市民活動団体等が協働して、交流イベントの実施、まちあるきコースの作成や魅力ある観光資源の発掘などの人が集まる仕組みづくりを進めます。



駄菓子屋「宝島」(やなせ宿)

▶ 人と人が支えあい楽しく暮らせるまちづくり

人と人の関わりを大事にしながら、世代を超えて地域ぐるみで支え合い、すべての人が、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるまちづくりに取り組みます。

▶ すべての世代に夢と希望を与えるまちづくり

世代を問わず、誰でも新しいことにチャレンジすることができ、また、それを応援する環境づくりを進めます。そして、これまで受け継がれてきた伝統や文化を取り入れながら、持続可能なまちづくりに取り組みます。

▶ 安心して暮らせる安全な災害に強いまちづくり

防災や防犯に対する意識を高め、地域の実情に応じた防災訓練を行う等、地域全体で助け合うことのできるまちづくりに取り組みます。



隠街道市

第3章 地域別計画

中央ゆめづくり協議会

現状と課題

鴻之台・希央台地域は、市の中央部に位置し、住宅地や商業施設、行政機関などの都市機能が集積しており「歩いて生活できるまち」になっています。

協議会発足当時からの課題であった地域コミュニティの絆づくりのために、春、秋の収穫祭や夏まつり、敬老のつどい、クリスマス会、餅つき大会など様々な行事を行ってきました。10年を経過した現在では会場が溢れんばかりの大盛況となっています。

また、地域の居場所づくりのために集会所を利用して「町なかクラブ」を発足し、高齢者や子どもたちのサロンとして運営しています。

そして、毎年恒例となった「ワークショップ」では役員だけでなく地域住民も参加し、地域の「これから」について意見を出し合い、次年度以降の事業に反映させています。

ここに住む方が10年後、20年後も“いつまでも住み続けたいまち”と思えるようなまちづくりを今後も進めていきます。



まちづくりの将来像

「みんながつどい、いつまでも住み続けたいまち」

市の中心部に位置し、名張市の行政・業務・情報交流等の都市機能が集約された新しいまちです。

行政・商業の「顔」だけでなく、緑あふれる都市居住空間として、誰もががつどい、いつまでも住み続けられるまちを目指します。



ちゅちゅおくとクリスマス会

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 安全で快適な環境の絆を育むまちづくり

省資源・省エネルギーや資源の有効活用に取り組むとともに、安全で快適な環境整備を図ります。

▶ 支えあい安心の福祉の絆を深めるまちづくり

誰もが安心して暮らせるように、交流の場づくりや支えあいの仕組みづくりに取り組みます。

また、地域コミュニティとしての成熟度が高められるよう進めます。

▶ 自助共助、助け合い、安全の絆を高めるまちづくり

地域における自助・共助の仕組みづくりや自主防災活動等の防災に係る取組を図ります。

また、安全、安心を確保するために活動する自主的な組織づくりや地域ぐるみの防犯活動を進めます。



まちなかクラブ



毎年恒例となった「ワークショップ」

▶ 集う、憩う、ふれあう、交流の絆を広げるまちづくり

子どもから高齢者まで誰もががつどい、ふれあえるような場づくりや絆づくりの取組を図ります。

▶ 地域力を活かして未来への絆をつなぐ創造のまちづくり

地域の特性を活かした地域での活動について、市や近隣の事業者などと協働、連携を図っていきます。

また、鴻之台3号公園を地域の絆づくりの拠点として位置付け、みんながつどい、交流できる場として、また、体験学習の場として活用できるよう整備します。



3号公園内の「ゆめづくり農園」

第3章 地域別計画

蔵持地区まちづくり委員会

現状と課題

蔵持地域は、市の中央部に位置し、美しい田園風景に囲まれた農村集落と閑静な緑が丘住宅団地が融合する住みやすい地域です。

また、国道165号や国道368号が交差する市の交通の要衝でもあり、国道沿いには、産業の拠点である蔵持工業団地や三ツ池工業団地、そして、商業施設（大型店舗、小売店舗、飲食店など）が立ち並んでいます。

近年、大型商業施設の進出が目覚ましく、さらに、市道赤坂夏秋線の開通により一層の発展が期待されています。

一方、生活環境が便利になった反面、開発により美しい田園景観が失われていくことが危惧されています。

また、地域の人達が生きがいを持って暮らしていくための地域の要である市民センターでの行事や活動が大切な役割を果たしていますが、その際に利用する駐車場が狭く活動に支障をきたしています。



まちづくりの将来像

「都市機能と緑あふれる田園風景が共存するまち」

美しい田園風景に囲まれた農村集落と閑静な住宅団地の他に、産業拠点となる工業団地や大型商業施設など、様々な都市機能を併せ持った地域です。

この蔵持地域の特性を活かして、新しい都市機能と昔からの緑あふれる美しい田園景観が共存できるまちを目指します。



小学生の田植え体験

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 健康で生き生き暮らせるまちづくり

誰もが健康で生き生きと暮らせるよう、健康づくりの機会を提供するとともに、各世代や世代間、地域内での交流が図れるように色々な場づくりや取組を進めます。

▶ 歴史と文化のまちづくり

初瀬街道、神社仏閣、地蔵尊等をはじめ歴史的・文化資源を生かしたまちづくりを推進します。

また、地域住民のニーズにあった活動や色々な機会を通し、文化芸術活動など心を豊かにする取組を進めます。

▶ 安全、安心のできるまちづくり

誰もが安全で安心して暮らせるように、自主防災活動や災害時における要援護者への支援活動、「まもくら工房」での非常食の製造、「蔵清水の井戸」での災害時の飲み水の確保など地域ぐるみで活動を推進します。

また、青色防犯パトロールを実施し、地域の防犯に努めます。

▶ 環境に優しいまちづくり

自然環境保護や住環境整備に係る各種活動に取り組みます。

また、地元で取れた野菜等の地産地消の推進、住民の足である緑が丘コミュニティバス運行の継続など、生活しやすい環境づくりを進めます。



青色防犯パトロール



クリーン大作戦で一斉清掃



蔵持小学校 地域防災体験学習



地域住民が協力しプール清掃

第3章 地域別計画

川西・梅が丘地域づくり委員会

現状と課題

川西・梅が丘地域は、市の中西部に位置し、計画的に整備された大規模住宅地の梅が丘地区と、その周辺に広がる農村集落の川西地区で構成されています。周囲には緑豊かな里山や山林が広がっており自然が身近に感じられる地域である一方、名張川を挟み中心市街地につながっており、都市的機能へのアクセスにも恵まれています。



また、川西地区は1,300年以上の歴史のある地区である一方、梅が丘地区は、昭和60年より入居が始まった新興住宅地であり、コミュニティの歴史や成熟度、人口構成等に違いがあり、双方の特性を生かした地域活動の持続が重要であるが次世代への人材確保と育成が課題となっています。

まちづくりの将来像

「誰もが生きいきと輝いて暮らすことができるまち」

地域住民の参加と総意、責任によって誰もが生きいきと輝いて暮らす事ができるまちづくりを目指します。

まちづくりの基本方針

▶ 人にやさしい支え合う社会の推進

「ナウラ」を拠点とした子育て支援活動をはじめ、「憩い茶屋」を活かしたふれあい交流、「敬老会」事業への支援など、世代間を超えた人を大切にする事業に引き続き積極的に取り組めます。

また、高齢化社会を迎えた今日、自分1人で身の回りのことができなくなることへの不安を抱えている住民が増加する中、生活支援、外出支援の利用頻度が増加傾向にあり、活動に対する期待が大きい現状を踏まえ、より安全かつ充実した人に寄り添う、人にやさしい支え合う社会の構築を目指します。

▶ 災害に強く、犯罪や事故のない安心・安全なまちづくりの推進

地域住民の命や財産を守るため、様々な自然災害時を想定した避難誘導の反復訓練をはじめ名張川河川改修の要望への取組や、救命装具等の充実のほか、犯罪抑止力の高い防犯パトロールの実施、防犯カメラの維持管理、救急救命講習会の開催など、防犯、防災事業に引き続き、積極的に取り組めます。防災、防犯事業に対する地域住民の期待は大きく、更に住民参加を促した各種事業を継続し、災害に強く犯罪や事故のない安心・安全なまちづくりを継続して推進します。

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 活力ある地域活動の推進

親睦を目的とした「新春笑うて走ろう会」、「夏祭り」、「フェスタ」「梅祭り」のほか、市民センターを拠点とした生涯学習の推進及び各種サークル活動の支援など、地域住民が生きがいと活力を実感することができ、更に誇りの持てる地域活動を引き続き展開していきます。

また、活力ある地域活動が将来にわたり持続できるよう、独自財源を生み出すことができるコミュニティビジネス（駐車場事業）の充実を図ります。

▶ 環境にやさしく美しいまちの推進

多くの地域住民が誇りに思う「美しいまち」がいつまでも持続できるよう、住民参加の下、まちの美化について適正な管理に引き続き取り組みます。

また、街並み景観や環境を損ねている空き地に繁茂する雑草や犬のフン害に対して、地域を挙げて環境改善に向けた取組を継続します。

▶ コミュニティ・スクールの推進

地域と学校が一体となってつくりあげる特色ある学校づくりを目指し、コミュニティ・スクールの推進に引き続き取り組みます。



タイムカプセル埋設事業



短野・下三谷の農道 フンの一斉清掃

第3章 地域別計画

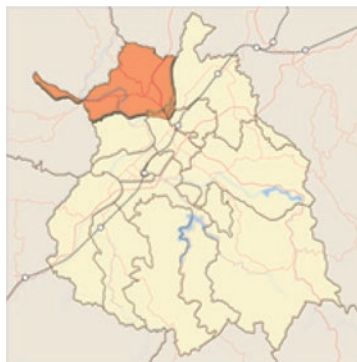
薦原地域づくり委員会

現状と課題

薦原地域は、市の北西部に位置し、古くから開けた農村集落と新しい住宅地、そして市内最大規模を誇る八幡工業団地から構成されています。

地域の大半を山林と田園が占め、高塚山をはじめ四季折々に美しい姿をみせる山々を背景に、左岸の堤には桜が咲き、清らかな流れと潤いをもたらす名張川や、その優れた環境の証として生息するホタルや市の天然記念物のギフチョウ、また、国・県・市指定の文化財を有し西国薬師第三十六番霊場でもある弥勒寺など、次世代に引き継ぐべき貴重な資源があります。

農業の担い手不足による耕作放棄地の発生、若者の離村などによる人口減少と高齢化、更に空家の増加、農作物に対する鳥獣害など、農村集落を取り巻く課題が深刻化しています。



まちづくりの将来像

「やすらぎのふるさと薦原」

～わたしたちのきずなでつむぐ、安心・安全・安住の里づくり～

住民の交流や助け合いによる「ひとづくり」を通して、誰もが暮らし続けたいと感じる魅力ある「やすらぎのふるさと」の創造を目指します。



薦原



第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 快適な道路環境の形成

事業の必要性や効率性を勘案しながら、日常生活を支える地域内道路の維持管理や広域幹線道路の整備促進などを計画的に進めるとともに、廃棄物の不法投棄への対策や通学路の安全確保を進めるなど、快適な道路環境の形成に取り組みます。

▶ 親水空間の創造

古くから桜の名所として親しまれている名張川の堤などの環境保全や景観形成に取り組みます。

また、河川環境学習の場として活用するなど、水辺空間の有効活用に取り組み、親水空間の創造を目指します。

▶ 薦原公園の拠点性向上

多くの住民が気軽に利用できる交流拠点として施設や周辺環境の点検を行い、魅力ある公園づくりに取り組み、地域の活性化につなげます。

▶ 地域資源の育成

森林、里山、河川などの豊かな自然を保護し、ホタルやギフチョウなどが継続して生息できる環境整備に取り組みます。

また、地域に受け継がれる獅子舞など特徴ある伝統行事を継承するとともに、耕作放棄地の有効活用や地産地消の推進、担い手育成など、貴重な地域資源の育成に取り組みます。

▶ 安心・安全ネットワークの構築

防災対策の取組、地域コミュニティバスの運行、配食サービス・コモコモサポートなど支えあいの福祉活動、児童の通学や独居高齢者に対する見守り活動など、ここをつなぐ安心安全ネットワークの構築に取り組みます。

▶ 地域の魅力発信

地域住民相互の交流事業により地域住民の生活をより楽しくするとともに、他地域との情報交換や地域資源の相互利用を通じて、地域の魅力発信に取り組みます。

また、市の施策である地域おこし協力隊として派遣された方と協働して、地域・学校・保育所等の活動をSNSや紙媒体などを通じて発信していきます。



地区民運動会（四方綱引き大会）



コモコモふれあい祭り

第3章 地域別計画

地縁法人 美旗まちづくり協議会

現状と課題

美旗地域は、市の北部に位置し、市内最大の農産物供給地である農業集落地の中に、美旗駅周辺などに開発された住宅地が混在する特性を有し、近鉄大阪線や国道165号により本市の東の玄関口となっています。

また、小波田川流域やその周辺の田園風景など美しい自然景観に恵まれるとともに、県下最大級の馬塚古墳をはじめとする美旗古墳群、観阿弥創座の地、「天正伊賀の乱」の合戦場となった中世城跡（滝川城跡）、三里十八町に及ぶ新田水路、初瀬街道の新田宿の街並など、地域全体に歴史的文化遺産が多数現存しています。

地域内に集積した優良農地では、水田農業をはじめ特産物の生産の振興を図り、高生産型農業が推進されていますが、一方では遊休農地の活用や次世代の担い手育成などの課題があります。



まちづくりの将来像

「活力と潤いのあるまちづくり・人づくりを通じて ひろがりのある地域を目指して」

人と人とのつながりや地域連帯の重要性を改めて認識し、「だれもがやさしい福祉のまちづくり」や「住んでよかったと実感できる活力と潤いのある地域づくり」を目指します。



古墳まつり

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 自然と歴史が香る「史跡と文化のまちづくり」

美旗古墳群や、能楽発祥の地、観阿弥ふるさと公園、初瀬街道などの歴史的文化遺産や、小波田川流域をはじめとする美しい自然環境を有効的に活用し、田園・歴史・文化ミュージアム構想の具体化を進め、自然と歴史の香り高い史跡と文化のまちづくりに取り組みます。

▶ だれもが生きいき「安全安心のまちづくり」

防災訓練、防犯活動、交通安全などの取組や、魅力ある居住環境の構築や青少年健全育成、世代間交流などの地域活動を推進し、だれもが生きいき暮らせる安全安心のまちづくりに取り組みます。

▶ 活力と潤いのある「産業経済活性のまちづくり」

地域内に集積した優良農地では、水田農業をはじめとして、ぶどうやメロンの特産物の生産を図るとともに、遊休農地の有効活用により市民農園を拡大し、農商工が連携した取組や地産地消のシステムづくり、担い手の育成など、産業経済活性のまちづくりに取り組みます。

▶ 環境に優しい「資源循環型のまちづくり」

環境にやさしい資源循環型のまちづくりに取り組むとともに、雇用拡大や地域ブランドの創出につなげます。



どんど



防犯パトロール

第3章 地域別計画

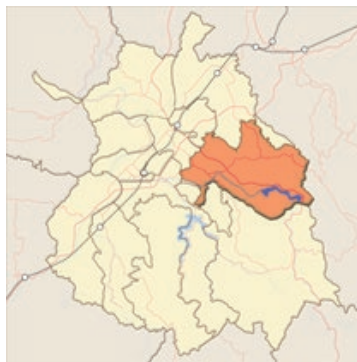
ひなち地域ゆめづくり委員会

現状と課題

比奈知地域は、市の東部に位置し、古くからの農村集落と新しく開発された富貴ヶ丘住宅地で構成され、名張川やひなち湖、東山ふれあいの森など、水と緑の美しい豊かな自然に恵まれています。

国道368号や広域農道（伊賀コリドールロード）などの交通アクセスも整備され、滝之原工業団地の企業立地も進み、名張市の活力向上と雇用創出の一翼を担っています。

また、農村集落では、いくつもの歴史や伝統文化が今もなお継承されています。今後、更に新興住宅地の新しい知恵や活力を導入・連携して交流を深め、美しい自然とともにこの貴重な地域資源を様々な観点から地域の活性化につなげていくことがまちづくりの課題のひとつとされています。



まちづくりの将来像

「住民の視点から人権が保障され 安全・安心に暮らせる福祉の増進と生活環境の実現」

歴史文化の農村集落と新興住宅地がひとつに融合・連携し、住民が自ら考え、行動を起こし、安全で安心して暮らせる地域づくりを目指します。



健康体操イベント

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 自然との共生・共存による保全と活用

東山ふれあいの森の豊かな自然やひなち湖周辺の水辺空間を市民の憩いやレクリエーションの場として位置付け、その有効活用に取り組み、地域の発展につなげます。

▶ 地域の歴史・文化の発掘、尊重と活用

伝統行事を通じた地域内交流や地域外への情報発信など、その存続と発展に向けた取組を進め、地域の活性化につなげます。

▶ 老若男女の居場所や健康づくり等の環境づくり

世代間交流や健康づくりの場として既存施設を有効活用するとともに、高齢者の健康推進や子育て世代の応援などに取り組み、人と人、人と地域の心豊かな共助のネットワークを広げます。

▶ 安全・安心で快適なまちづくり

生活環境の向上を図るとともに、防犯パトロールなど地域ぐるみの防犯活動や防災意識の向上の推進に取り組み、環境、景観、安全、安心、治安、防災などが充実した快適なまちづくりを進めます。

▶ コミュニティの拠点づくりと支え合いのまちづくり

地域全体の助け合いの仕組みの構築と福祉の拠点づくりに取り組み、世代間交流や住民の協働意識の醸成と向上を図り、住民相互に認め合い、支え合う、健康で安心して暮らせるまちづくりを目指します。



東山ふれあいの森 草刈り活動



グラウンドゴルフ大会



「唐招提寺に竹を送る会」の活動

第3章 地域別計画

地縁法人すずらん台町づくり協議会

現状と課題

すずらん台地域は、計画的に整備された緑豊かな山林や里山に包まれた閑静な住宅地です。

昭和56年に入居が始まって、世帯数の増加に伴い地域コミュニティの活動も活発になっています。しかし、鉄道駅や市の中心市街地から離れていることなどから、高齢化とともに、生活の利便性の向上が地域の課題となっています。平成19年には、高齢者の移動支援・生活支援を目的とした会員制の「ライフサポートクラブ」を設立し、自宅まで送迎しています。

また、平成12年には給食ボランティア「ひだまり」が配食・会食をスタートし、平成22年には高齢者サロン「きずな」を開設、平成26年に整備した「きずな公園」とともに、老若男女の交流の場となっています。夏まつりのフィナーレに花火を打ち上げ、毎年楽しみの行事となっています。

現在は、地縁法人すずらん台町づくり協議会が中心となって、4つの自治会や市民センター、小学校、ボランティア団体等の協力をえて地域づくりをすすめ、高齢者支援や子育て支援、生活環境の改善に努めています。



まちづくりの将来像

「笑顔が絶えない活力のある町づくり・人づくりをめざして」

地域コミュニティを生かした交流や支え合いにより、いつも笑顔が絶えることのない、魅力的で誇りの持てる町づくりを目指します。



市民センターまつり

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 高齢者や障害者が安心して暮らせる福祉の町

高齢者や障害者が地域の見守りの中で生活できるよう、地域での移動支援・生活支援を支える「ライフサポートクラブ」の内容充実に取り組み、安心して暮らせる町づくりを進めます。



ライフサポートクラブ

▶ たまり場づくりをすすめ、地域ビジョンを推進します。

「ライフサポートクラブ」や「サロンきずな」を地域ビジョンとして位置づけ、多様な取組ができるよう充実していきます。

「サロンきずな」や「西1番町お茶屋」、集会所、きずな公園を拠点として、高齢者や子どものたまり場づくりを進め、独りぼっちをなくしていきます。



サロンきずな

▶ 地域環境の改善に努め、災害に強く犯罪や事故の無い安心・安全な町

地域の環境美化に取り組み、緑と花でうるおいのある町づくりを進めます。

防災体制を整備し、青パトや見守り活動を通じて、防犯、交通事故防止など、安心安全で住みよい町づくりを進めます。



落ち葉大作戦

▶ 子育てがしやすく子どもたちが明るく育つ町

子育て情報の発信や市民センターを活用した子どもたちの活動場所の提供など、子どもを安心して産み育てる町づくりを目指します。

すずらん台小学校との連携を強化し、若い世代が自由な発想と行動で、住んでみたいと思う町づくりを進めます。



納涼夏まつり

▶ 健康長寿の取組を進め、皆で支え合う地域コミュニティの活発な町

はつらつ元気隊やラジオ体操など健康長寿の取組を継続します。

市民センターを中心に、地域住民のふれあいや世代間交流を深め、皆で支え合う地域コミュニティの活発な町づくりを進めます。



きずな公園



配食・会食サービス

第3章 地域別計画

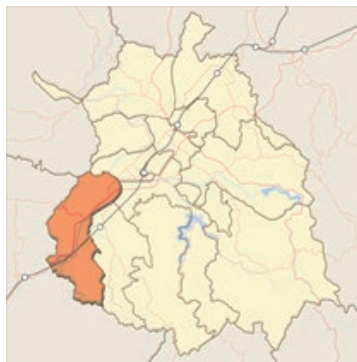
地縁法人 錦生自治協議会

現状と課題

錦生地域は、市の西部に位置し、中央部を流れる宇陀川沿いに基盤整備された優良農地と農業集落及び地域の西側は奈良県と接し、茶臼山をはじめとする豊かな森林地帯で構成されています。

古来より、宇陀川や初瀬街道を通じ人の往来が頻繁で、現在も国道165号による三重と奈良、大阪方面を結ぶ交通の要所であり、また、赤目四十八滝等への観光客のアクセスルートとなる名張の西の玄関口としての役割を担っています。

また、黒田庄や竜口城址・城山城址など、地域の歴史、文化や伝統行事を有し、これらを後世に残すため、保存し継承していくことが必要です。



まちづくりの将来像

「活力と潤いのあるまちづくり、人づくり」

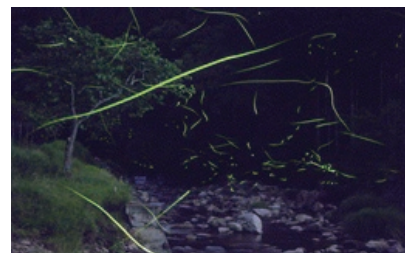
「自分たちのまちは自分たちでつくる」の観点から、住民の思いや願いを反映し、活力と潤いのあるまちづくり、人づくりを目指します。

まちづくりの基本方針

▶ 自然保護と地域整備

地域住民の生活に潤いと安らぎを与え、地域住民が身近に水に触れ憩うことができるよう、遊歩道の整備や宇陀川の水辺環境を貴重な資源として有効利用し、ホタルの乱舞する親水空間の創出など自然と調和した安心・安全な景観形成を進めます。

また、地域住民が健康で生き生きと暮らせるよう地域内にある里山から背後に繋がる歴史ある山へ手軽に登れるウォーキングコースの整備に取り組みます。



阿清水川で乱舞するホタル



宇陀川の現況



ウォーキング大会



ウォーキング大会

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 史跡の保存と活用

黒田庄や竜口城址・城山城址などを地域共有の財産として積極的に保存・継承し、人と人のつながりの持てる文化の薫る魅力的で活力のあるまちづくりを目指します。



竜口城址



城山城址

▶ 地域におけるコミュニティビジネスの創出

肥沃な土地から生産される、米や野菜、国道165号線の地の利を活用した、新しいコミュニティビジネスを創出し、地産地消の促進と地域住民の交流を図ることができる事業を展開します。

▶ 安全・安心のまちづくり

地域住民が安全・安心に暮らせるよう、地域全体で防犯活動に取り組めます。

また、自主防災体制の充実・強化に取り組むとともに、危険地帯の事前把握を行いハード面での充実・強化を図り災害を未然に防ぎよう取り組めます。



砂防ダム



避難所収納庫の備品点検

▶ 人づくりと思いやり

地域の暮らしを支え、豊かで暮らしやすい地域づくりを図る上での移動手段として、誰もが安心して利用できる地域コミュニティバス「ほっとバス錦」の効率的かつ安定的な運営に取り組むとともに、地域の高齢者がはつらつと活躍できる場づくりを進めます。



ほっとバス錦



区民運動会



高齢者のつどい

第3章 地域別計画

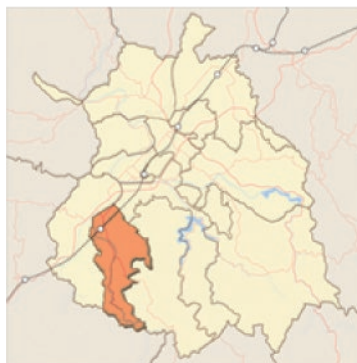
赤目まちづくり委員会

現状と課題

赤目地域は、市の西南部に位置し、美しい田園風景の広がる農村集落、新川やすみれが丘などの比較的小規模な住宅地、南部の広大な森林から構成されています。

また、近鉄赤目口駅は、関西方面からの名張の玄関口です。

市を代表する景勝地で多くの観光客が訪れる「平成の名水百選」にも認定された赤目四十八滝をはじめ、琴平山古墳や柏原城跡、東大寺への松明調進行事など、美しい自然や歴史、伝統文化といった様々な地域資源を有していますが、近年、観光客が減少傾向にあり、竹あかりライトアップやキャンプ場等のイベント開催など地域課題解決に向けた取組が求められています。



まちづくりの基本方針

▶ 歴史と文化を育む 魅力あふれる わがまち あかめ

赤目四十八滝をはじめとする美しい自然や松明調進行事などの歴史・文化を大切にし、生かしながら魅力あふれるまちづくりを進めるとともに、これらの地域資源を国内外に発信します。

道路整備等の計画的な取組や防犯パトロールの充実などにより、安全で快適な生活環境づくりに取り組むとともに、地域資源を有効に活用し、持続的な農業への取組や地場産品の直売、環境保全活動などに取り組み、農業と観光産業の連携によるコミュニティビジネスの創出につなげます。



日帰りキャンプ（赤目四十八滝キャンプ場）

まちづくりの将来像

「みんなで考え みんなでつくる 夢はぐくむ わがまち あかめ」

安全安心に対する取組が充実しているまちになることを期待し、若い世代も参画したまちづくり組織をより充実することにより一層の活性化を図り住民が快適に暮らせるまちづくりの推進を目指します。

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ ともに支えあい 健康でいきいきと暮らせる 笑顔あふれる わがまち あかめ

地域住民相互の連携を保ち、誰もが互いに人格と個性を尊重し、支えあう「共生社会」の実現を目指します。

人権の尊重を基本に、住民見守りネットワークの構築など、生涯にわたり誰もが住み慣れた地域で暮らせるよう、総合福祉支援事業「あんしんねっと赤目」の更なる充実を図り高齢者が安心して暮らせるまちづくりを進めます。



ふれあいサロン「珈琲サロン」

▶ 互いに認め合い 誰もが大切にされる わきあいあいの わがまち あかめ

多くの人々が集まり、語り、学び、交流し合うことにより、和気あいあいで、心豊かにふれあうまちを目指します。

あいさつや交流を通じて子どもから大人までみんなで支えあう元気で明るいまちづくりに取り組むとともに、生涯学習活動を通じた生きがいのある「人づくり」「地域づくり」、イベントやボランティア活動などの地域活動を通じた地域の連携強化に取り組みます。



まちたんけんで小学生と交流

第3章 地域別計画

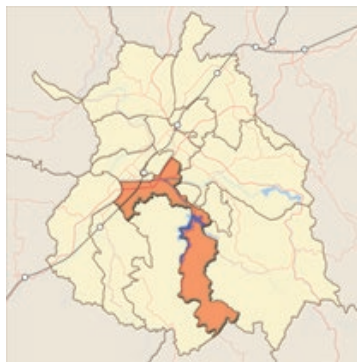
箕曲地域づくり委員会

現状と課題

箕曲地域は、市の中心部から南部にかけて南北に伸びる地域で、名張川と青蓮寺川の合流周辺から下流の宇陀川との合流部にかけて農地が広がり、農村集落が点在しています。中心部は、名張駅に近く、国道165号が通過していることから、早くから商業施設などの開発が相次ぎ、国道の沿道にはロードサイドショップが多くあります。

南部にある青蓮寺ダムの上流には山村集落があり、その背後には広大な森林が広がっています。

旧村落部は空き家や高齢化が顕著に表れてきています。しかし、生活に便利な地域であり、住宅・アパート等が建設され新たな人の転入もあります。交流の機会を増やしながら住まいするみんなによる地域づくりを進め、活力のある地域を目指していかなければなりません。



地域の歴史・文化を知ろう「みのわ探検ものがたり」

まちづくりの将来像

「どこにも誰にも誇れる『住みやすさ最優秀』の創造」

地域とゆかりある「桃」をイメージコンセプトとした、豊かな人間関係やみんなの暮らしを守る安心安全のまちづくりを基本とし、住民の生活や環境が充実し活力のある、ずっと住み続けたいと思える地域を目指します。



酒米収穫の秋「稲刈りイベント」

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 生きがいを持って暮らせる明るいまちづくり

誰もが地域社会の担い手として、豊かな経験や能力を発揮でき、生きがいを持って暮らすまちづくりを目指します。

また、ふるさととして誇れる豊かな自然や史跡夏見廃寺跡などの文化資源の活用に取り組みます。

さらに、地域経営に貢献できるコミュニティビジネスの展開を図ります。

▶ 人とのふれあい、絆を大切にするまちづくり

サロン活動や気楽に立ち寄れる場づくりで、ふれあい、絆を大切にするまちづくりを目指します。

また、伝統的な祭事等を通じて、地域における住民間交流を促進し、見守りや子育て支援など地域福祉の向上を図ります。

▶ 暮らしを守る安心安全のまちづくり

住民の自主防災意識、防犯意識、交通安全意識の高揚を図り、地域ぐるみで自主防災体制の充実や強化、防犯並びに交通安全活動に取り組みます。

また、人が行き交い活力あふれる安全で快適な全ての人にやさしいまちづくりを目指します。



箕曲文化祭



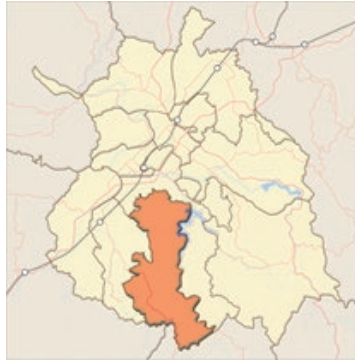
子育てサロン「ももちゃん広場」

第3章 地域別計画

一般社団法人 青蓮寺・百合が丘地域づくり協議会

現状と課題

青蓮寺・百合が丘地域は、市の中心部から南部にかけて南北に伸びる地域で、ぶどうを中心とする観光農業が盛んな青蓮寺地区と、計画的に整備された大規模な住宅地である百合が丘地区・南百合が丘地区で構成されています。地域の南部には広大な森林が広がり、青蓮寺湖をはじめその上流部に位置する景勝地の香落溪など自然や観光資源に恵まれています。



少子高齢化の中で、地域資源を有効活用し、安全で安心な生きがいを感じるまちづくりのために、行政に頼り過ぎず自主自立の運営を目指します。

また、市全域での重要課題でもある「働く場づくり」と「担い手の若返り」実現のために貢献できるよう活動を推進します。

まちづくりの将来像

「豊かな自然と触れ合う、安全安心で生きがいを感じるまちづくり」

香落溪や青蓮寺ダムなど水と緑の豊かな自然を地域のかげがえのない財産として、大切に守り、人と自然が共生する潤いのあるまちづくりと、周辺環境に調和した人が行き交い活力あふれる、安全で快適なまちづくりを目指します。



青蓮寺湖

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 住民の交流促進でいきいきコミュニティづくり

交流の場である集会所の整備計画を根幹に、地域イベントへの参画、隣近所の関係づくりを通じて交流促進を図ります。

また、防災訓練を通じた交流と防災意識の醸成を図るとともに、消防団活動を支援し、地域防災力の充実に努めます。

▶ 健康増進・福祉の充実でやさしいまちづくり

地域支え合い事業として買い物支援バス、家庭作業支援、配食サービスなどの充実に努めるとともに、災害時の見守り、支援体制を充実します。

また、子育て、介護予防の事業を推進しつつ、スポーツを通じた健康増進のための事業や関係団体との連携も図ります。

▶ 住みよい環境の整備で安心安全な環境づくり

公共交通不便地解消、道路改良、災害時の避難経路確保など関係機関と連携して解決を図ります。

また、普段から住環境確保と防犯灯維持管理に努めつつ、公共用地の利用拡大に向けた取組に注力します。

そして、農業環境維持のための水確保や自然環境保全に努め、土砂災害課題などについても関係機関に働きかけ、解決を図ります。

▶ 地域文化を継承し、生涯学習の充実でひとづくり

小学生への学習支援、放課後支援や地域の防犯パトロール、あいさつ運動などを通して児童の健全な発達を支えます。

また、中高生のボランティア活動と連携し、教育文化事業の充実に努めます。さらに、サークル活動の奨励や市民センター事業の充実に努め、生涯学習の充実に努めます。

地域や人のためにボランティアに関わることが、生きがいつくりや人づくりにつながることを念頭に、活動スタッフの育成に努めます。

▶ 就労（地域貢献）で生きがいつくり

有償ボランティアの仕組みを充実させるとともに、新たな就労機会の創出を検討しつつ、運営の担い手や事業活動の主役が若い人へ循環していくよう努めます。

青蓮寺・百合が丘地域の観光化、農業の健全な発展のための地産地消の奨励、その商品開発や販売、サービス提供を検討します。

また、徒歩圏内の買い物、移動販売なども検討対象として地域貢献する人を増やし、生きがいつくりにつなげます。



百合が丘市民センター

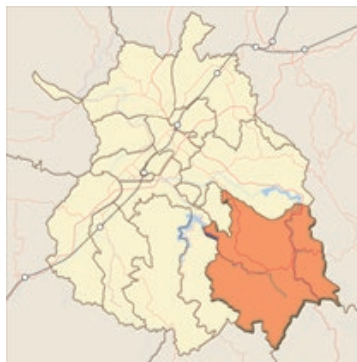
第3章 地域別計画

国津地区地域づくり委員会

現状と課題

国津地域は、市の南部に位置し、山あいに点在する美しい農山村集落とその背後に抱く広大な森林、名張川上流部の川沿いに広がる農山村集落で構成されています。古くから現在の津市美杉町太郎生や伊賀市高尾地区等との人・物的な交流など密接なつながりを持つ地域でもあります。

一方、中心市街地への交通の不便さ等から人口流出が進行し、過疎化が深刻となっています。また、国津地区と長瀬地区とを結ぶ道路の幅員が狭く、急勾配、急カーブも多いため、往来が難しく地域活動や活性化の弊害となっていることから、その改修が課題となっています。



田園風景

まちづくりの将来像

「山・里の豊かさを『くらし』に活かす地域づくり」

山あいに点在する美しい農山村集落があり、四季を通じて自然に恵まれています。

また、2つのダムの水源地でもあります。こうした豊かな自然との共生とともに、農山村の生活環境の整備・向上や市内外の交流の場づくりの推進を目指します。



国津の集落



春のくにつふるさと館

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 皆で創る地域の暮らし

高齢化が急速に進み深刻な過疎化の中で、地域住民がお互いに助け合って暮らせる仕組みづくりに取り組みます。

また、住民主体の地域づくり活動が活発に展開できるよう地域づくりの新たな担い手確保や人材育成を進めます。



支え合い事業

▶ 安心・安全で住み良い暮らし

コミュニティバスあららぎ号の効率的かつ安定した運営を進めるとともに、快適な交通環境を形成し若い世代も住み続けたいような環境づくりに取り組みます。

また、犯罪のない安全で安心して暮らすことのできる明るい地域社会を創出し、自主防災組織の強化を図ります。



あららぎ号

▶ 多様な地域資源で支える暮らし

地元農産物の産地直売活動や農産物の加工といったコミュニティビジネスの仕組みづくりを進めるとともに豊かな資源を活用した、木材、加工品、特産品、エネルギー等の地産地消の活動や共生的な経済活動を進めます。

▶ 元気で誇りのある暮らし

高齢者の豊かな経験や知識を生かすことのできる仕組みづくりを促進し、生きがいを持ちながら社会に参画できる「生涯現役の社会づくり」を整備します。

また、くにつふるさと館等を活用した世代交流行事、趣味やサークル活動など地域を学ぶ機会を提供し、地域愛を醸成するとともに地域の誇りづくりを進めます。



くにつふるさと館

▶ 新しい仲間と共に創る暮らし

地域の多様な魅力を情報発信することにより地域への理解を高めていくとともに、都市住民や団塊の世代が住んでみたい、行ってみたい」と思えるような名張市民のふるさとを目指します。

また、はぐくみ工房あららぎを拠点とした森林資源を活用した体験学習の機会を充実するとともに、市内外との地域間交流を促進します。



一人暮らし高齢者へ鮎を配布



木工体験教室

第3章 地域別計画

桔梗が丘自治連合協議会

現状と課題

桔梗が丘地域は、市の中部に位置し、近鉄桔梗が丘駅を中心にして計画的に整備された大規模な住宅地で、入居から約50年を経過する地区と、現在も入居が進んでいる新しい地区があります。

入居開始から長い年月を経過している地区では、成熟度の高いコミュニティが形成されていますが、少子高齢化が進んでおり、一方、新しい地区では、年齢層が若いもののコミュニティの成熟度を高める必要があります。



まちづくりの基本方針

▶ 元気・賑わい “ほっとまち”

誰もが元気で暮らし、人が行き交い、集う活気のある街並みや居場所をつくり、元気・賑わいを感じられるまちを創ります。



桔梗まつり

▶ 安心・安全 “ほっとまち”

地域ぐるみでの助け合いの社会や安らぎのある快適な暮らしのなかで、安心・安全を感じられるまちを創ります。



支え合い事業

まちづくりの将来像

「人の心が織りなす幸せ社会 “ほっとまち” 桔梗が丘」

人がいきいきと輝き、互いを思いやり、支え合い、自分らしさを出せるよう、「人づくり」や「絆づくり」を大切にして、住み良さが実感できる

“ほっとまち” 桔梗が丘を創ります。



第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 生きがい・健康 “ほっとまち”

スポーツ、文化・芸術活動など余暇の充実やボランティア活動で自分らしい生きがいを見つけ、健やかに暮らせる地域社会をつくり、生きがい・健康が感じられるまちを創ります。



ほっとまち茶房での交流

▶ 緑・環境 “ほっとまち”

自然を大切にし、街なかの緑、きれいな街並みを持续させ、環境に関心を持った暮らしを通じて、緑・環境が感じられるまちを創ります。



公園等の環境整備

▶ 子ども・未来 “ほっとまち”

子どもたちが健やかに育ち、権利が守られ、知・徳・体の向上により、子ども・未来が感じられるまちを創ります。



ききょう農楽園

▶ 自律・規範 “ほっとまち”

近所づきあい、地域活動を通じて地域への愛着を深め、社会のルールに従い、自分らしさを出せる暮らしのなかで、自律・規範が感じられるまちを創ります。



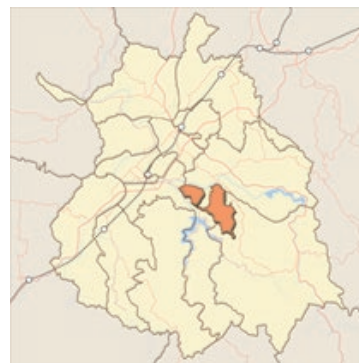
登下校の見守り

第3章 地域別計画

つつじが丘・春日丘自治協議会

現状と課題

つつじが丘・春日丘地域は、いずれも計画的に整備された大規模な住宅地で、人口が1万人を超え、桔梗が丘地域に次ぐ人口規模となっています。空き家対策や防災訓練など地域の安心・安全を守る取組とともに、地域全体で子どもの育ちを支援する環境づくりに力を入れています。



また、地域の南東に接する国津地域と公共施設の相互利用や地域づくりの活動をはじめ、様々な面で交流・連携を進め、住民の心豊かな暮らしを創造する取組を行っています。

まちづくりの将来像

「このまちにずっといたい！」

～誰もが胸をはって住みたくなるまちづくり～

地理的な特性や自然、歴史・文化及び豊富な人材等の地域資源を有効に活用し、様々な課題（問題）の解決を図り、このまちにずっと住み続けたいと思えるより良いまちづくりを目指します。

まちづくりの基本方針

▶ 安心・安全で生きがいを持って暮らせるまちづくり

誰もが安心して暮らせるように資源を生かした緑や歩行空間の整備、公園等の管理など快適な環境づくりに取り組みます。

また、医療や地域福祉を充実させ、高齢者、障害者が生きがいを感じられるよう取り組みます。

▶ 子どもたちを心豊かに育むまちづくり

共働き世帯の増加など、子育て環境が大きく変化する中で、「地域の子どもは、地域で育てる」を目標として、家庭、地域、学校が連携し、子どもが心豊かに成長できるよう取り組みます。



つつじっ子会議

第3章 地域別計画

まちづくりの基本方針

▶ 生活環境・マナーを推進するまちづくり

迷惑駐車やスピード違反をなくし、安全で快適な道路環境を確保するとともに、交通安全運動を展開し、交通マナーの向上を図ります。

また、ごみの分別や地区外へのゴミ捨てなどマナーやモラルの向上を図り、清楚で美しいまちづくりを進めます。

▶ 心の交流を生み出す文化を核としたまちづくり

文化芸術活動の振興を図るとともに、魅力ある地域に密着した文化の創造による生きがいとゆとりに満ちた暮らしが実現できるように取り組みます。

また、地域団体等と協働し、地域における優れた文化・知識の発掘やネットワークづくりを進めます。



あいさつ運動



おじゃまる広場



子どもフェスタでの熱気球搭乗体験